

事業報告書

平成27年度

社会福祉法人 緑風会

特別養護老人ホーム 緑風館

緑風デイサービスセンター

小規模多機能「みどりの家」

居宅介護支援事業所 緑風館

緑風在宅介護支援センター

《 目 次 》

I	法人の概要	1~5P
II	介護老人福祉施設	6~21
III	短期入所生活介護事業	22~24
IV	通所介護事業	25~33
V	小規模多機能型居宅介護事業	34~36
VI	居宅介護支援事業	37~42
VII	在宅介護支援センター	43~45
VIII	地域交流	46~47

I 法人の概要

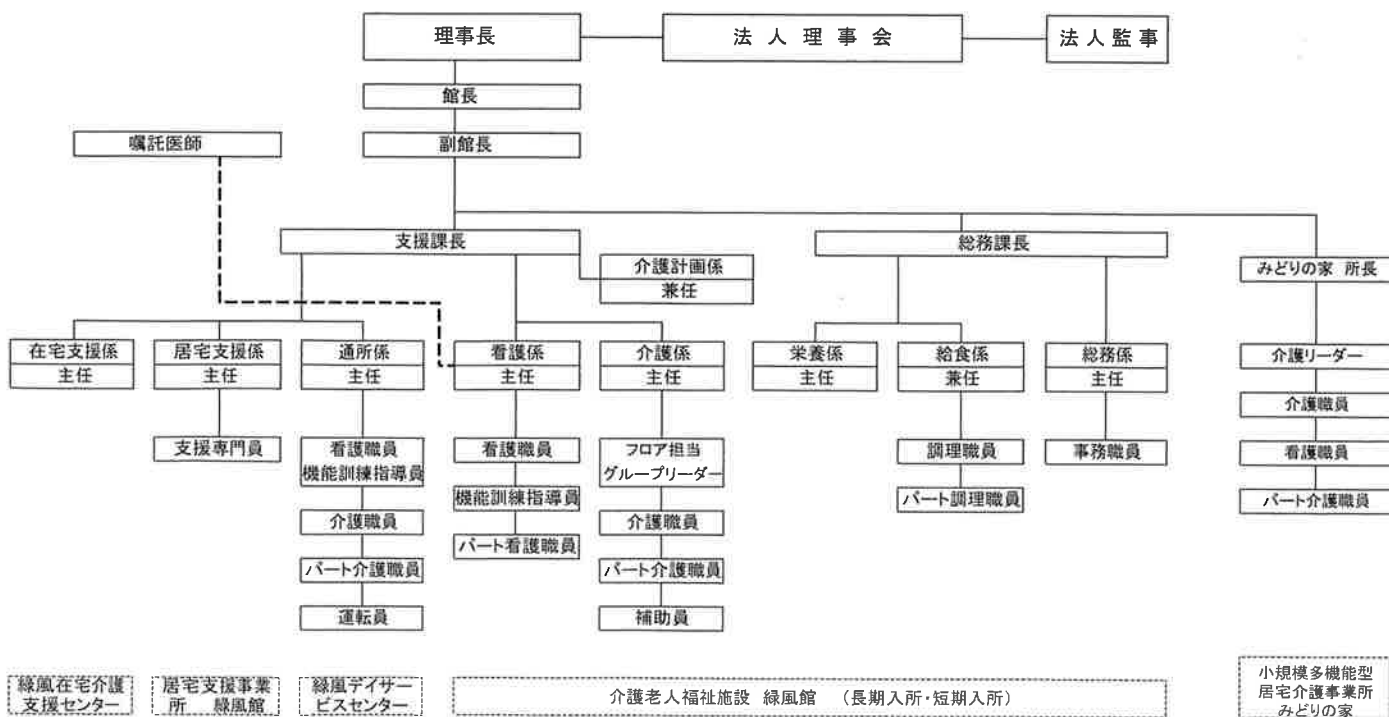
1 名称及び所在地

- [1] 名 称 社会福祉法人 緑風会
- [2] 所 在 地 兵庫県南あわじ市広田中筋1025-19
- [3] 法 人 認 可 平成6年2月7日

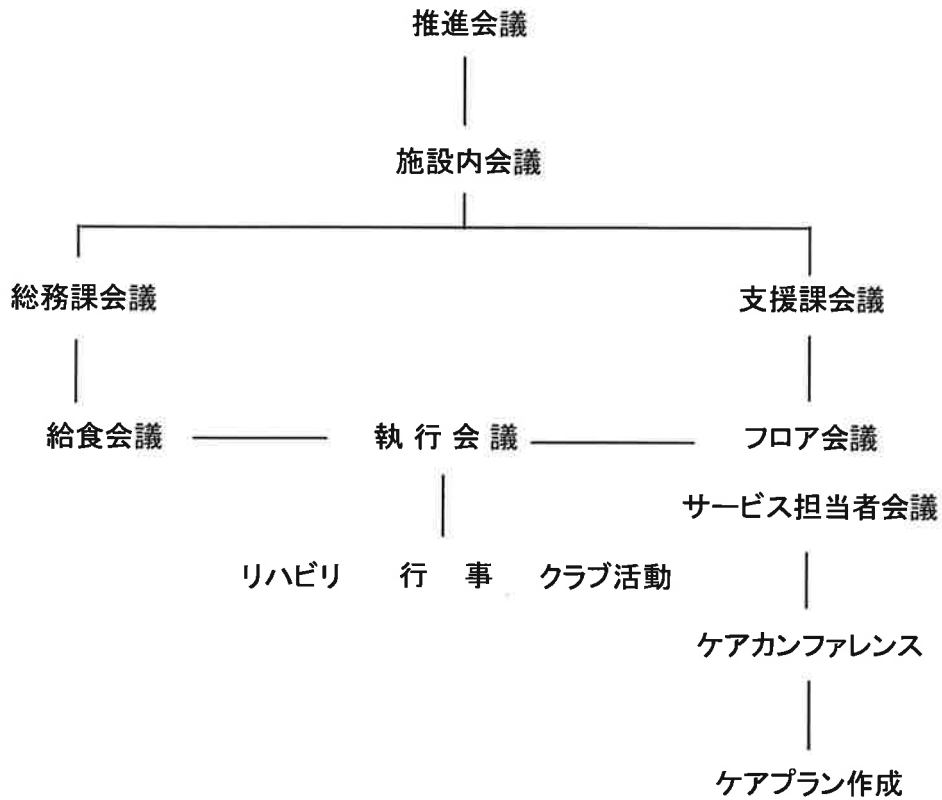
2 法人の組織

平成28年3月31日現在

緑 風 会 組 織 表



3 業務の運営体制



4 職員の勤務体制

事務職員	日勤	A M 9:00 ~ P M 6:00
ケアワーカー	早出	A M 7:00 ~ P M 4:00
	日勤	A M 10:00 ~ P M 7:00
	夜勤	P M 5:30 ~ A M 10:30
看護職員	日勤	A M 9:00 ~ P M 6:00
調理職員	早出	A M 6:00 ~ P M 3:00
	日勤	A M 9:00 ~ P M 6:00
	遅出	A M 10:00 ~ P M 7:00

5 職員配置

〔1〕事業別職員配置

(平成28年3月31日現在)

区 分	介護老人福祉施設 特別養護老人ホーム 緑風館			通所介護 緑風デイサービス		居宅介護支 援緑風館		小規模 みどりの家		緑風在宅介 護支援セン ター		合 計		
	常 勤	非常勤	常 勤 換 算	常 勤	非常勤	常 勤	非常勤	常 勤	非常勤	常 勤	非常勤	常 勤	非常勤	合 計 人 数
施設長	1		1									1	0	1
管理者						1		1				2	0	2
事 務 員	1	2	2.1									1	2	3
相 談 員	1		1	1						1		3	0	3
介護支援 専門員	1		1			1						2	0	2
ケ ア ワーカー (うち介 護福祉 士)	20	12	25.8	2	4			5	8			27	24	51
	(17)	(2)	(17.4)	(1)				(2)	(5)			(16)	(5)	(21)
嘱 託 医 師		1	0.1									0	1	1
看 護 職 員	2	3	3.2	1				1				4	3	7
機能訓練 指導員	1		1									1	0	1
栄 養 士	1		1									1	0	1
調 理 職 員	2	8	6.2		1							2	9	11
そ の 他		3	1.9		1							0	4	4
合 計	30	29	44.3	4	6	2	0	7	8	1	0	44	43	87

〔2〕事業別施設外研修の実績

職員の資質の向上を図るため次表のとおり外部研修会に派遣した。

研 修 内 容	特別養護老人 ホーム緑風館	緑風デイサー ビスセンター	小規模 みどりの家	居宅介護支援 緑風館	緑風在宅介護 支援センター	合 計
ケアプラン関係	3					3
認 知 症	34	9	9	1		53
リスクマネジメント	4	1				5
給 食 業 務	4					4
医 療 ケ ア	10	1		2		13
行 政 ・ 保 険	19	5	1	4	4	33
総 務 事 務	8					8
財 務 事 務	8					8
ケ ア マ ネ				29	12	41
資 格 取 得	4	5	8			17
福祉器具・施設見学	10				4	14
地域サポート	8					8
レクリエーション	1	2				3
そ の 他	10	10	2		24	46
合 計	123	33	20	36	44	256

〔3〕広報誌発行実績

次のとおり、緑風だよりを目標の3回発行し、各種の施設情報を発信した。

区 分	発行日	発行部数
緑風だより 27号	平成27年8月10日	200部
緑風だより 28号	平成27年12月10日	300部
緑風だより 29号	平成28年3月10日	300部

6 27年度事業計画に対する実績(総務報告)

[1]収入状況

平成27年度の特養(長期・短期)の利用人数が昨年度より215人増加して、344万円増収した。デイサービス、居宅支援は、共に利用人数は、昨年より増加しているが、介護報酬の改訂の影響と介護度が低い利用者が増えた影響で一人あたり単価が低くなりっている。特にデイサービスは、昨年より81万円減収している。

小規模多機能型事業みどりの家は、一人あたりの単価が上がったので114万円増収している。

【26年度】

区 分	利用人数	稼 動 率	介 護 保 険 収 入	単 価
	① (人)	(%)	② (円)	②÷①(円)
特養(長期・短期会計)	25,094	98	281,781,855	11,229
緑風デイサービス	5,464	84	48,186,351	8,819
居宅支援事業 緑風館	1,390		16,649,430	11,978
小規模多機能型居宅介護	7,076	78	59,180,720	8,364
合 計			405,798,356	

【27年度】

区 分	利用人数	稼 動 率	介 護 保 険 収 入	単 価
	① (人)	(%)	② (円)	②÷①(円)
特養(長期・短期会計)	25,309	99	285,228,169	11,270
緑風デイサービス	5,926	92	47,370,177	7,994
居宅支援事業 緑風館	1,491		16,791,210	11,262
小規模多機能型居宅介護	7,089	78	60,327,680	8,510
合 計			409,717,236	
前年差額			3,918,880	

II 介護老人福祉施設

1 施設の概要

- 〔1〕名 称 特別養護老人ホーム 緑風館
- 〔2〕所 在 地 兵庫県南あわじ市広田中筋1025-19
- 〔3〕開 設 平成6年6月20日
- 〔4〕設 置 運 営 社会福祉法人 緑風会
- 〔5〕定 員 60名
- 〔6〕土 地・建 物
- 土地面積 2,742.36㎡
- 建物構造 鉄筋コンクリート造り 3階建(一部4階)
- 建物延面積 3,020.41㎡

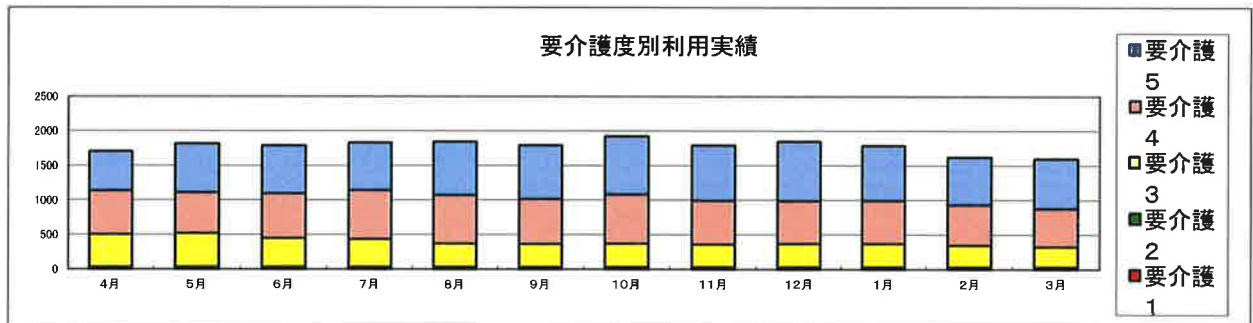
2 入所者の状況

〔1〕月別入退所者数

区分	6~ 26年	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	27年 度計	累計	男	女
入所者数	358	3	0	1	0	1	2	1	0	0	1	0	2	11	369	100	269
退所者数	298	0	1	1	1	1	1	0	1	2	1	0	3	12	310	87	223
月末 在 所 者 数		63	62	62	61	61	62	63	62	60	60	60	59				

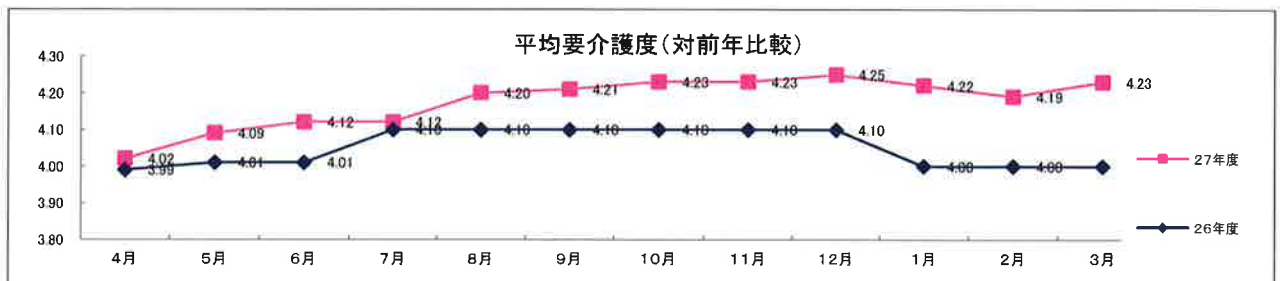
[2]要介護度別利用実績

区分		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
平成 27 年度	要介護1	人	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		延	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	要介護2	人	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
		延	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	29	31	366
	要介護3	人	16	16	14	14	12	13	11	11	11	11	11	11	151
		延	475	490	419	403	341	337	341	330	341	341	319	293	4430
	要介護4	人	24	22	23	23	23	23	23	23	22	22	21	20	269
		延	634	587	646	708	701	647	708	631	614	619	583	552	7630
	要介護5	人	22	24	25	24	26	26	28	28	28	27	27	30	315
		延	566	709	690	686	770	780	842	800	860	795	687	723	8908
	合計	人	63	63	63	62	62	63	63	63	62	61	60	62	747
		延	1705	1817	1785	1828	1843	1794	1922	1791	1846	1786	1618	1599	21334
	平均介護度		4.02	4.09	4.12	4.12	4.20	4.21	4.23	4.23	4.25	4.22	4.19	4.23	4.18



平均要介護度

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
26年度	3.99	4.01	4.01	4.10	4.10	4.10	4.10	4.10	4.10	4.00	4.00	4.00	4.05
27年度	4.02	4.09	4.12	4.12	4.20	4.21	4.23	4.23	4.25	4.22	4.19	4.23	4.18



〔3〕入所期間別状況

(平成28年3月31日現在)

区分	6ヶ月未満	6ヶ月以上 ～1年未満	1年以上～ 3年未満	3年以上～ 5年未満	5年以上～ 10年未満	10年以上	合計
男	2	1	7	3	0	0	13
女	2	6	19	8	8	3	46
合計	4	7	26	11	8	3	59

平均入所期間	男性	1年5ヶ月	女性	3年10ヶ月	平均	3年4ヶ月
--------	----	-------	----	--------	----	-------

〔4〕年齢別分布状況

(平成28年3月31日現在)

区分	65～74	75～79	80～84	85～89	90～94	95～99	100～	合計
男	2	0	1	7	2	1	0	13
女	2	4	9	8	17	5	1	46
合計	4	4	10	15	19	6	1	59

平均年齢	男性	86歳	女性	88歳	平均	88歳
------	----	-----	----	-----	----	-----

最低年齢	71歳	最高年齢	101歳
------	-----	------	------

〔5〕身元引受人状況

(平成28年3月31日現在)

続柄	配偶者	子	孫	兄弟	甥・姪	成年後見人	その他	合計
人数	3	53	0	1	0	2	0	59

〔6〕退所事由別数調

区分	死亡		長期 入院	その他	合計
	施設	病院			
退所者数	2(1)	5	5	0	12

※()内は看取り介護の数

〔7〕入所前居住場所調

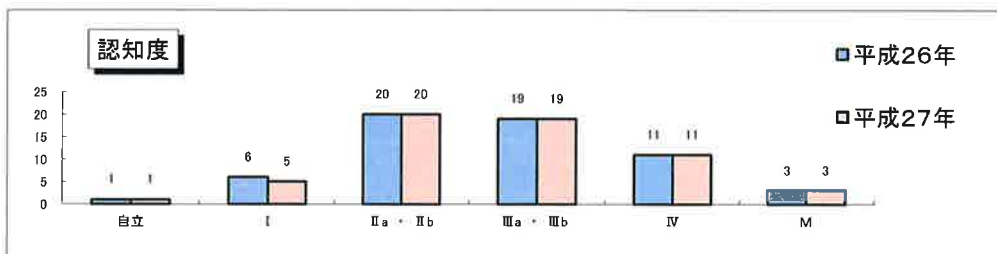
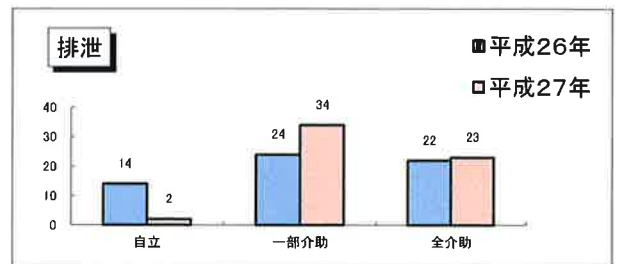
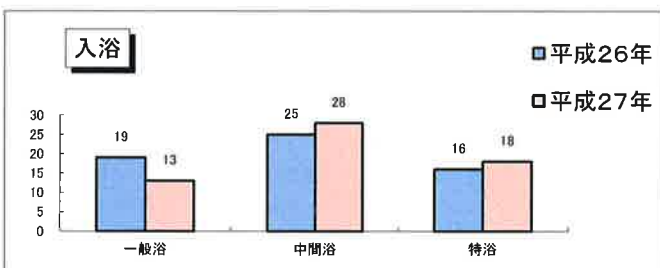
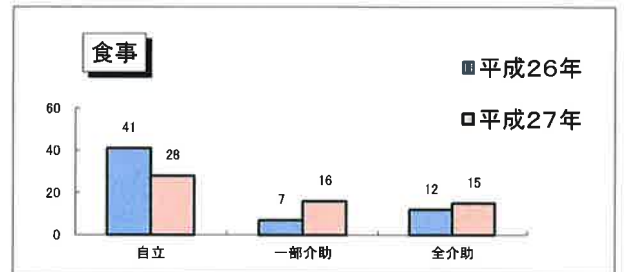
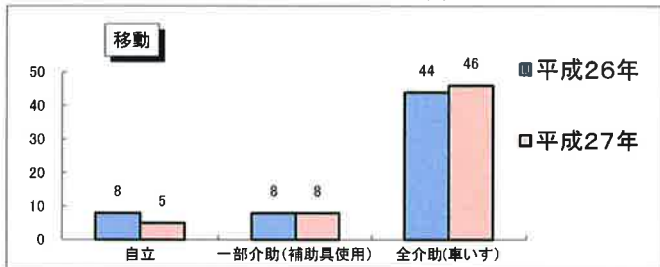
区分	在宅	療養 病院	老健 施設	療養型 施設	その他	合計
入所者数	4	6	1	0	0	11

[8]入所者の日常生活・認知度状況

(平成28年3月31日現在)

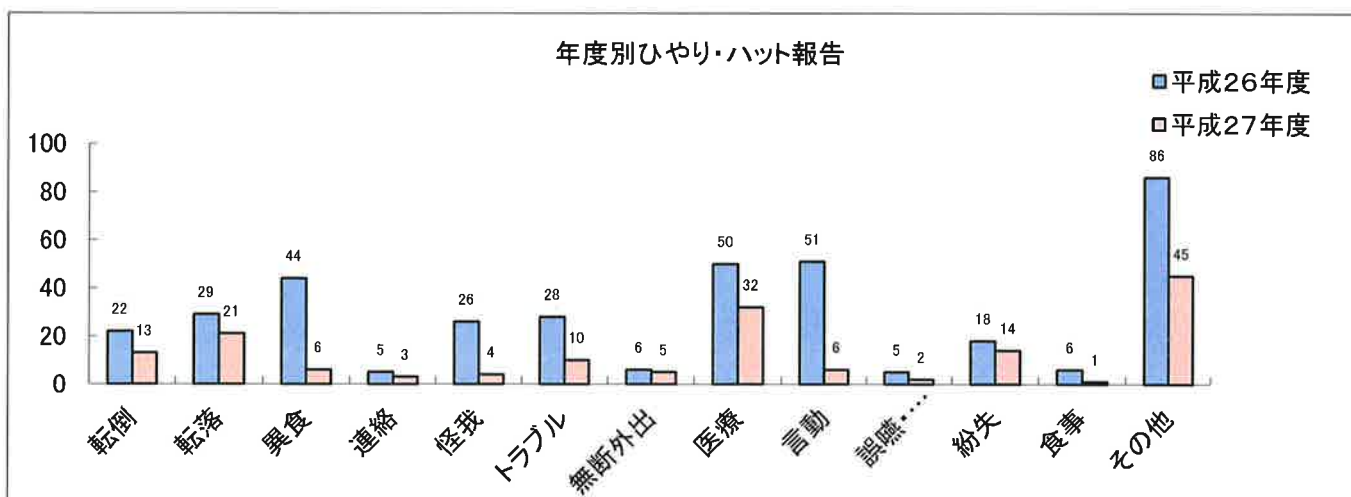
区分		26年度	1階	2階	3階	合計	割合
移動	自立	8	0	4	1	5	8%
	一部介助(補助具使用)	8	0	4	4	8	13%
	全介助(車いす)	44	16	17	13	46	74%
食事	自立	41	9	11	8	28	47%
	一部介助	7	3	10	3	16	27%
	全介助	12	4	4	7	15	25%
入浴	一般浴	19	0	8	5	13	31%
	中間浴	25	11	10	7	28	47%
	特浴	16	5	7	6	18	30%
排泄	自立	14	0	0	2	2	3%
	一部介助	24	11	16	7	34	57%
	全介助	22	5	9	9	23	38%
認知度	自立	1	1	0	0	1	2%
	I	6	2	1	2	5	8%
	Ⅱa・Ⅱb	20	6	8	6	20	33%
	Ⅲa・Ⅲb	19	6	7	6	19	32%
	Ⅳ	11	1	6	4	11	18%
	M	3	0	3	0	3	5%

※棒グラフについては昨年度との対比



[9]ひやり・ハット報告書作成状況

区分	26年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
転倒	22	0	1	1	0	2	2	1	2	2	0	2	0	13
転落	29	3	4	0	0	5	0	0	2	1	2	3	1	21
異食	44	0	0	0	1	3	0	0	1	1	0	0	0	6
連絡	5	0	0	0	0	0	1	0	0	2	0	0	0	3
怪我	26	0	2	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	4
トラブル	28	1	2	3	0	0	0	0	0	0	2	0	2	10
無断外出	6	2	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	5
医療	50	6	3	2	2	6	3	3	2	1	2	1	1	32
言動	51	0	0	0	0	0	1	0	4	0	1	0	0	6
誤嚥・誤飲	5	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2
紛失	18	2	2	0	2	0	2	0	1	2	1	1	1	14
食事	6	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
その他	86	8	7	8	2	4	4	3	1	4	1	2	1	45
合計	376	22	23	14	8	21	14	7	14	13	9	10	7	162



〔10〕 事故報告(市への報告事故)状況

区分	事故発生日	原因	事故内容	性別	受診先	入院の有無
1	平成27年6月14日	転倒	左大腿骨内部の出血	女	翠鳳第一病院	無
2	平成27年7月3日	転倒	左上腕骨折	女	翠鳳第一病院	無

〔11〕 苦情・要望状況

- ・苦情・要望報告書を作成する事により、利用者・家族の要望(2件)や思いの丈を知ることができ、これによる対応を迅速に行っている。
全職員が共有して対応することで、再発防止に取り組んだ。

3 平成27年度事業計画に対しての取り組みと結果

<介護部門>

〔1〕 1階フロア

- ・安全面では、ひやりハット、各種発見、事故が発生した時点で内容を検討し、暫定的に対応するケアを打ち出した。同時にご家族への連絡と説明を丁寧に行った。毎月のフロア会議では発生した事例の再検討を行い対応するケアの決定を行った。
- ・安心面では、快適に生活が送れるようにフロア内の環境整備の見直しを目指した。
衛生委員会と連携し、4S(整理・整頓・清掃・清潔)活動に取り組んだ。しかし、ソファの買い替えや整理整頓用の物置の購入を検討していたが、本年度は購入に至らなかった。引き続き、次年度に計画して利用者がリラックスできる場所作りに取り組みたい。
- ・毎月の施設内研修後に、日勤パート職員を交えて意見交換を実施した。利用者との信頼関係作りや好ましい対応方法について、フロアスタッフ全員で考える事ができた。利用者への安定したケアの提供に繋げることができた。
- ・毎月のフロア会議にて、各委員会の進捗状況を各委員会より発表し、ケアの徹底に努めた。
- ・フロアでのレクリエーションは、季節ごとの飾り絵作りや書道クラブ、はいからクラブを実施してきた。計画していたおやつ作りや食事作りは実行できないこともあり、不十分であったと考える。利用者の重度化もゆるやかに進んでおり、次年度以降は、利用者のニーズに応じた内容でのレクリエーションに見直すことを検討したい。

〔2〕 2階フロア

- ・個別に関わることについては、できている職員とできていない職員とに分かれていたが、できていない職員には、コミュニケーションの大切さや関わり方等を話し合い、理解を得ることができ、結果自ら進んで関わっていく姿が見られた。
- ・統一したケアが継続して実施できるについては、申し送りが途絶えたり、連絡帳への記載がなかったり、また連絡帳を閲覧していないことがあった。職員への周知徹底ができておらず、今後の

課題となった。

・環境整備については、利用者が共に過ごせる場として環境を見直すことができた。個々の居室の環境としては、本人・家族と相談しながら安全で過ごしやすい環境作りができた。

〔3〕 3階フロア

今年度は『ゆとり』『自立』『笑顔』に重点をおき支援してきた。

・『ゆとり』に関しては、利用者の身体機能に応じて、利用者各々に対する『ゆとり』を考慮し、フロアのソファの配置を変更し、和室の環境整備も行うことでゆったりと、心地よく過ごせるよう支援してきた。また、家族の来館があった際には、利用者と共にゆったりと過ごしてもらえようソファ等の配置も工夫した。今年度は新たに利用者から要望が高かった「昭和の歌謡集」のCDを購入したので、日中は利用者の青春時代に流行した歌謡曲をフロアで流し、寛いでもらえるようになった。



和室の環境整備



ソファの配置を工夫

・『自立』に関しては、利用者の『〇〇してみよう、〇〇がしたい』という自己決定を表出できるようサポートをしてきた。今年度は利用者から『何か映画でも観てみたい。…歌謡ショーを観たい。』という要望に応え、DVDレコーダーを新たに設置した。これにより、利用者から録画の要望を聞いてその都度録画予約し、日中観てもらう時間を用意できるようになった。また、塗り絵や貼り絵等、手芸作品を作成する際には利用者の意見も参考にし、作品づくりを共に楽しんでいる。今年度は特養としては初めて緑文化祭に作品を出展でき、その際も利用者から作品選びのアドバイスをもらった。利用者のモチベーションアップが身体機能の維持、向上、自立心の向上に繋がっていると実感することができた。



緑文化祭での出展



手芸作品の作成

・『笑顔』に関しては、法人理念でもある「私たちの願いはあなたの笑顔です」をもとに、普段から支援の中核として捉えている。上記内容にもあるように、利用者の要望をなるべく叶えていくことで、生きがいや喜びに繋がっていると感じている。今年度、フロアでのレクリエーションは合計32回開催。この他、フロア独自でカラオケ会も開催できるようになり、また、午後から定期的に歌遊びを交えながらの体操をフロア独自で行うようになり、これが好評で定例化にも繋がっている。これら

生活支援を工夫することで利用者の笑顔に繋がり、そして家族の笑顔、職員のモチベーションアップに繋がったと実感している。ただし、昨年度まで毎月開催できていた夕食づくりやおやつづくりは、今年度は職員不足の影響で年間4回しか開催できず課題と考えられる。今後はレクリエーションのあり方を今一度見直し、ケアの本質を引き続き探りながら、利用者の笑顔、家族の安心、職員のやりがいに繋がるよう邁進していきたい。



カラオケ会



体操レク



レクリエーション風景

〔4〕 看護職員

平成27年度床ずれ発症者人数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1	1	1	1	3	3	3	1	2	2	1	0

- ・他職種連携を図り床ずれゼロを目指して実施してきたが、年間通してゼロには至らなかった。
- ・月1回の協力歯科医(奥田歯科)の協力により、個々に応じた口腔ケアが実施できた。
- ・27年度の看取り介護実施者は1名であった。

〔5〕 施設内感染予防対策の徹底

- ・感染時の対応を、職員全員が統一できるよう施設内研修を年2回実施した。
- ・研修会では実践訓練を踏まえノロウイルスマニュアルに沿って実施した。
嘔吐者に対する的確な処置方法を訓練する事により感染症への確実な対策訓練となった。
- ・感染症(インフルエンザ・ノロウイルス)の蔓延防止について、手洗い等の励行強化を徹底していたが、2階フロアで風邪が蔓延し、体調不良者が多くでてしまった。原因としては食事前の利用者への手洗いの徹底と居室の換気、湿度の調整、また風邪をひいた方の居室移動が素早く行うことができていなかった。来年度への大きな課題となった。

〔6〕 安全・安心性の追求

- ・リスクマネジメント委員会・各フロア会議を、毎月1回実施し、報告書の分析と個別ケア検討を実施し、再発防止に努めてきた結果、事故件数は2件と減少した。
- ・介護事故の根絶を目指すため、施設内研修を行いリスクマネジメントの基礎知識や事故防止活動の具体的な取り組み例を学び、職員のスキルアップに繋げることができた。

〔7〕 介護支援専門員（その人らしさの追及、ケアプランの充実）

・サービス担当者会議の充実

《 平成27年度 職種別サービス担当者会議参加実績（年間開催日数36回） 》

職種	介護支援 専門員	生活相談員	看護職員	管理栄養士	介護係主任
参加回数	36回	26回	34回	30回	35回
参加率	100%	72%	94%	83%	97%

上表の通り、サービス担当者会議を定期開催することで利用者一人ひとりの課題を細かく検討し、専門性をもった視点でケアプラン化することができた。ただし、昨年度に比べ各専門職の参加率は少し低下したので、各専門職の安定した参加が実現できるよう努める必要がある。

「各種計画一覧表」や「ADL表」を毎月更新することで、各職種間の課題分析及び緊密な情報共有化を図ることができた。

・多様な様式による課題分析

《 平成27年度 アセスメントツールの活用実績 》

アセスメントツールの種類	気づきシート	センター方式 A-3	センター方式 A-3以外	包括自立支援 プログラム
延利用者数	115名	120名	5名	118名

利用者個々の状態に合わせた多様な書式の活用により、その人らしさの追求や自立支援を行い生活の質の向上に繋げることができた。また、昨年度より対象者数が増加した。

・ケアプランの効果検証

ケアプラン作成・変更の2週間後のモニタリングは42名について実施し、効果検証を行った。

ケアプランの作成は合計129件作成し、家族や利用者に同意を頂いた。うち、定期更新以外の適時の変更が必要となった利用者について22名のケアプラン変更を実施することができた。

・自己決定への配慮と工夫

利用者が生活の各場面において自己決定ができることにより生活の質の維持・向上が図られ、また自己実現にも繋がるよう配慮をしてきた。

自己決定に対する具体的ケア内容

喫茶コーナー、作品作りの相談、DVD録画の相談、食事席選択

「憩い処ふれあい」での余暇の選択(塗り絵、あやとり、硬筆、筆ペン、けん玉、パズル)

・ケアカンファレンスへの参加

《 本人及び身元引受人の参加実績 》

区分	平成26年度	平成27年度	前年対比
開催回数	141回	131回	10回減
本人 参加回数	10回	8回	2回減
本人 参加率	7.0%	6.1%	0.9%減
身元引受人 参加回数	138回	127回	11回減
身元引受人 参加率	100%	100%	同

《 ケアカンファレンス参加者の続柄別内訳 》

区 分	配偶者	子	子の 配偶者	孫	兄弟 姉妹	甥・姪	成年 後見人	その他	合 計
参加延人数	7名	86名	53名	2名	1名	1名	2名	3名	155名
割 合	4%	53%	33%	1%	1%	1%	1%	2%	100%

〔8〕 委員会の充実

【食と健康を考える会】

- ・口腔ケア・マネジメントの取り組みとして奥田・有馬歯科医師による検診および助言にて口腔ケアを行い、口腔内の清潔保持や誤嚥予防に努めた。疑問点を歯科医師に聞き、相談し課題を解決する事によりケアの質の向上に繋がった。

検診者数	口腔ケア取り組み者数
54名(延人数)	19名

- ・経口による継続的な食事摂取の支援(経口維持加算Ⅰ・Ⅱ)について、管理栄養士を中心に毎月、アセスメントを行い、167名(延人数)に安全かつ継続的に食事摂取ができるように取り組みを行った。
- ・食事形態の見直しについては、日々の体調に留意し、他職種連携を図ることで迅速に対応ができ、個人に合った食事形態を提供することができた。
安全な食事に向けて食事形態や口腔ケア・姿勢について外部研修に参加し、委員会メンバーで情報を共有した。
- ・各委員で自助具の種類などを調べ、知識や使い方について学んだ。適時の利用者の自助具を見直し・変更することにより、快適に食事ができるように努めた。

食事形態見直し者数	自助具・食器等見直し者数
72名(延人数)	33名(延人数)

- ・マニュアルを見直し、口腔ケアについて新たに追加する事ができた。マニュアルを確認することにより、統一したケアが図れた。
- ・委員会でゼリー食の試食を行った。食する人の立場になり、味付けや歯ごたえ等を体験することで良い経験となり、食事提供する上での理解に繋がった。

【排泄委員会】

- ・個別排泄ケアとして年2回(6月、12月)の尿量測定と、定期的な見直しを実施し、尿量測定で13名、定期的見直しで25名の方が排泄用具の変更を行った。
- ・紙はくパンツから下着(コットンパンツ)への見直しには、5名の方を変更することができた。
- ・スムーズな排便への取り組みとして、7名の方が刺激性の下剤に頼ることなく排便に繋がりが改善された。またスムーズな排便への取り組みを題材として、全国老人福祉施設研究会議(山形大会)で研究発表を行うことができた。
- ・排泄に関する職員の意識統一のため、各フロアの排泄介助方法の見直しと統一を図り、また排泄表における排便量の記載方法を次のように変更し、共通理解を繋げることができた。

《 排便量確認表 》

排便量 プリストルスケール	基準となる物	少量	中量	多量
		△	○	◎
1 (コロコロ便)	ゴルフボール	1～2個	3個～3.5個	4個～
2 (硬い便)				
3 (やや硬い便)				
4 (普通便)	バナナ	2/1本	1本～1.5本	2本～
5 (やや軟らかい便)				
6 (泥状便)				
7 (水様便)	牛乳	500ml未満	500～1000ml未満	1000ml～

- ・業者等によるおむつや床ずれの勉強会を実施し、排泄用具や床ずれに関する学びを深めることができた。また介護職員初任者研修に委員会から3人が講師として参加することで、改めて排泄に関する理解を深めることができた。

【入浴委員】

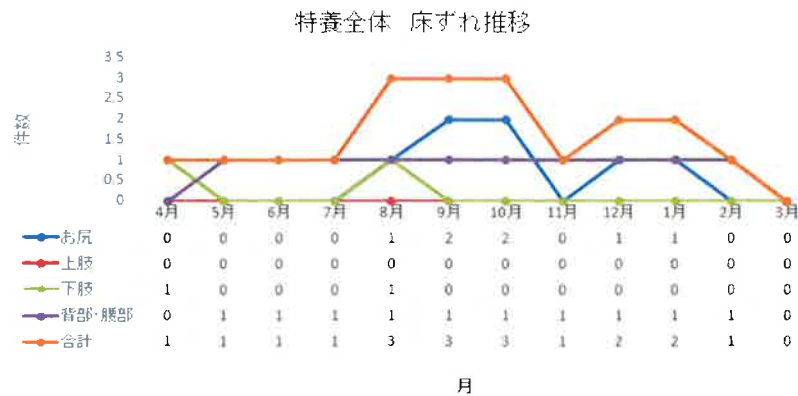
- ・利用者の入浴に関するアンケートを行い、個人別入浴援助方法の作成し実施(年3回)した。各フロアスタッフ全員と全利用者の個別情報の共有を図り、利用者の機能に応じた個別支援の向上とケアの安定化に努めた。
- ・毎月の入浴委員会にて、個々の利用者の状態変化や対応するケアの変更を検討し、一般浴、個浴、中間浴、特浴介助の適正化を図り、入浴予定表を随時更新した。
- ・期間限定の季節湯を提供し、お風呂の楽しみと快適性の向上に努めた。季節湯実施期間以外にも楽しめる入浴として、随時入浴剤を使用し楽しむことができた。季節湯の案内ポスターも随時作成し、各所に掲示して利用者にわかり易く案内することができた。来館者へも入浴委員会活動のアピールにも繋がった。
- ・備品の準備や補充を着実にやり、不足や不具合とならないよう取り組んだ結果、利用者の快適性の向上に努めた。
- ・浴室掃除(入浴委員による大掃除)を年2回実施した。浴室の美化と衛生環境の向上に繋がったと考える。
- ・今年度は、介護職員初任者研修の講師として入浴委員から3名が講師として参加することで入浴の支援についてさらに勉強し、ケアの向上を考える機会となった。

【ポジ・トラ委員会】

- ・安楽な姿勢や活動しやすい姿勢が保たれるよう委員会内で勉強会を開催し、理解を深めた。その上で今年度は、適切な体位変換方法や椅子や車いすでの安楽な座位の実現を目指し、6名の利用者を対象にケアの検討を行い実施。クッション等、福祉用具の使用方法を工夫し、また車いすの調節を適正に行うことで対象者すべてにおいて効果が見られた。
- ・利用者、職員双方にやさしいケアを目的に、福祉用具の使用による移乗等の介助方法を検討した。今年度は移乗用福祉機器スライディングボード(ベッド⇄車いす間の移乗時、利用者はそのボードの上に乗し、お尻を滑らせ移乗するもの)の使用を試みることで、安全で負

担が軽減できる介助を目指した。ただし、そのスライディングボードに合った車いすが施設にはなく、今後の継続した活用には至らなかった。来年度以降も様々な福祉用具を検討する。

一年を通じて床ずれに関して研究し、他職種連携のもとで床ずれゼロを目指すケアの実践に努めた。詳しい床ずれの統計は下表の通りであるが、総体的にみても入院に伴う床ずれが大きな発生要因と思われるため、普段から利用者の健康管理には十分に配慮していくべきと感じた。



【認知症委員会】

・4名の利用者が「ふるさとツアー」に参加され、自宅において家族とゆっくり過ごすことができた。

また、センター方式[暮らしの情報(私の暮らし方シート:B-3)]を活用して利用者の昔を知り、ふるさとツアーで自宅に帰った際に、輝いていた頃のアルバムを持ち帰り、コミュニケーションツールとして活用した。

【1階:A氏】居室にアルバムを置いて、自身でアルバムをみて過ごす時間を設けることができた。

【2階:B氏】居室にアルバムを置くことで、意図的に関わる時間が増えた。

【3階:C氏】思い出の写真を居室に展示するも、数日で破いていたため、職員から関わりの際にアルバムをみてもらう時間を設けた。

【3階:D氏】帰宅時や家族の話がみられた際はアルバムを見てもらい、関わる時間を設けることができた。



・改めて、アニマルセラピーについて学び、うさぎ(風ちゃん)を各階に移動(3ヶ月交代)し、風ちゃんとふれあう機会を設けることができた。また、アニマルセラピー経過観察を行った結果、特に風ちゃんに興味があり、ふれあうことでよい効果があった利用者は13名いた。各階に移動後、風ちゃんを気にかける利用者もいた。



- ・不適切な言葉かけを廃止するために、言葉かけのアンケートを年2回実施しました。実施後は、不適切な言葉かけを聞くことが少なくなった。またアンケート結果を施設内研修で発表することで、より適切な言葉かけの重要性を各職員へ伝えることができた。
- ・施設外研修で習得した内容は委員会メンバーで共有し、施設内研修で発表することで全職員へ発信することができた。



【環境を考える会】

- 1階 各居室を利用者にとって快適で安全に過ごせるように、物品の整理整頓を行うも場所の確保ができなかった。引き続き、検討を行っていく。

貼り絵等を行い、利用者とのコミュニケーションツールとしても活用した。



- 2階 フロアの表札を見えやすく、温かみのあるものにした。コルクボードを使用し、和模様の生地を使用し、名札も縦書きに変更した。



- 3階 和室を落ち着いた雰囲気の中で、テレビ・DVD鑑賞やお茶を飲みながら談話できる環境にした。また、テーブルやソファの配置を変えることで、たくさんの利用者がテレビ等の鑑賞ができるようになった。



- 4人部屋の居室は自身の部屋として区別がつきにくいので、馴染みの物や落ち着ける物を設置し、個室に近づける工夫を行った。他者の居室への出入りは少なくなった。



デイサービス デイのフロアを利用者が、さらに自立して過ごせる環境にした。利用者にとってわかりやすい掲示を行うことで自ら進んで活動するようになった。



事務所 事務所前の相談室や展示室を整理し、話しやすく、展示物が見やすい環境を設定したが、今年度は、実施できず、引き続き検討していく。

玄関先に季節の花や飾りを行うことで、来館者の目を楽しませることができた。



【地域貢献委員会(みどり元気応援隊)】

平成27年度の目標は「地域を知り、緑風館を知ってもらう」、行動計画は「地区の会に出向いていき、緑風館としてできることを提示し、ニーズを聞き取っていく」と設定して活動した。

・地域の交流の場を提供する。

平成27年6月より、不藤地区と広田南地区の住民の方に対して、毎週木曜日9時30分より緑風館の食堂をいきいき百歳体操実施場所として提供している。

・地域サポート型特養事業を行う。

平成27年8月より、1人暮らしの高齢者や高齢者世帯の方に見守りサービス事業を行った。

平成28年3月末現在の登録者は2名である。

・車椅子の貸し出しを行う。

緑風館前のみどり診療所を受診された足の不自由な方に対して、要望があった時には、車椅子を貸し出した。

・地域住民に対して緑風館を知ってもらう。

緑地区老人会に出席して、緑風会の事業内容について説明し、理解を深める活動を行った。その後も、老人会役員に対して広報誌を発送して、緑風館の事業内容を周知した。

・ペットボトルのふた、プルタブを寄付する。

職員や来館者の協力によりペットボトルのふたとプルタブを収集して、南あわじ市社会福祉協議会へ寄付した。今後もこの活動を支援して行きたい。

・広田梅林まつりの運営に協力した。

地域の身近な観光地である広田梅林で、老人会の方と交流を深めながら運営を手伝った。土曜日と日曜日を中心に5回参加した。

・介護職員初任者研修の開催。

兵庫県介護職員初任者研修事業の指定を受け、130時間の研修を開催し、地域の介護人材を育成できた。



【広報委員会】

・機関紙

緑風だより第27号 8月10日発行 300部

緑風だより第28号 12月10日発行 300部

緑風だより第29号 3月10日発行 300部

配布先 特養、デイ、みどりの家の利用者家族
島内他施設
みどり診療所
緑風館来館者 等

・ホームページ

9月 緑風会ホームページを新しく作り替える アドレス <http://ryokufuukan.sakura.ne.jp>

施設写真等の掲載を変更する。

介護職員初任者研修募集、地域サポートの募集、職員募集等お知らせ掲載

10月 ブログのページを作成する。 行事、情報等を発信する(フェイスブックへ転送)

<給食部門>

〔1〕 給食委員会

年6回開催し、給食の効果をあげるための必要な事項を検討することで、利用者へ安全で美味しい食事を提供することができた。

〔2〕 各種加算状況

平成27年度の各種加算状況は次のとおりであり、収入の確保に努めた。

「経口維持加算Ⅰ・Ⅱ」 加算報酬額：(Ⅰ)単価 4000円(月) (Ⅱ)単価 1000円(月)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
対象者	Ⅰ	0	23	25	24	23	24	24	24	0	0	0	0	167
	Ⅱ	0	23	25	24	23	24	24	24	0	0	0	0	167

「療養食加算」 加算報酬額：一人当たり単価180円(日)

療養食全体		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
対象者	実数	21	22	23	26	24	25	25	25	24	26	28	28	/
	延日数	554	659	662	759	734	697	765	712	743	714	710	761	

〔3〕 食事の充実

平成27年度も、利用者個々の状況に応じ、食べることの楽しさが実感でき、生活への意欲に繋がる、なによりも美味しい食事の提供に努めた。

- ・毎月フロアで催す喫茶コーナーでは、希望を聞き取り、メニューに反映させた。
- ・利用者全員に誕生日の希望メニューを聞き取り、誕生日カードを添え提供した。
また、今年度からご家族のご協力をいただき、「リクエストメニュー」を取り入れ、希望にそえるよう工夫した。
- ・毎年恒例の「ふれあい食事会～秋を味わうバイキング」では、利用者及び家族へアンケートを実施した結果、好評であった。
- ・咀嚼困難及び嚥下困難な利用者にも、見た目に美味しそうな食事が提供できるよう、調理方法、盛り付けや色彩などを工夫した。昨年度から引き続き、肉・魚料理をミキサーにかけ成型させたソフト食の調理に取り組んだ。結果、利用者の食欲を湧き立たせ、満足していただけることができ、利用者全体の喫食率を97%にすることができた。

〔4〕 感染症予防及び食中毒予防

- ・手洗いの励行喚起や全職員を対象に研修会を年2回実施し、予防を徹底したことで食中毒を阻止することができた。
- ・厨房内において、巡回的に掃除を実施し、清潔を保つことができた。

〔5〕 経費削減

- ・平成27年度の給食食材費は、利用者1日1人当たり800円目標のところ、794円で執行することができた。

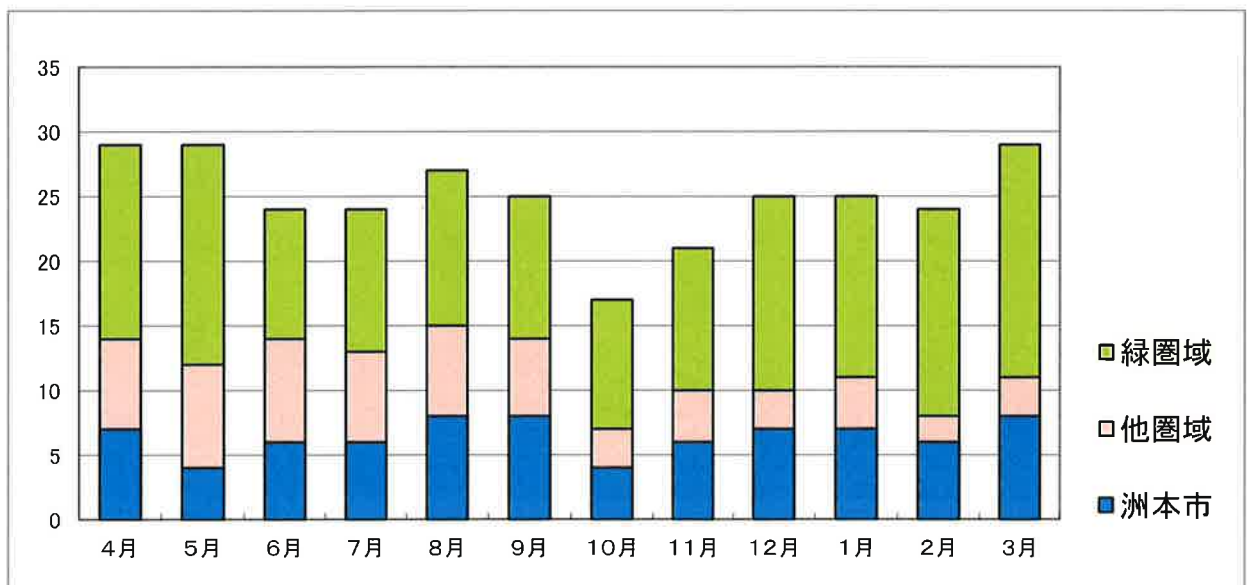
Ⅲ 短期入所生活介護事業

1 施設 の 概 要

- [1] 名 称 特別養護老人ホーム 緑風館
- [2] 所 在 地 兵庫県南あわじ市広田中筋1025-19
- [3] 開 設 平成6年6月20日
- [4] 設置運営 社会福祉法人 緑風会
- [5] 定 員 10名

2 市町別利用状況

区分		平成27年度												合 計	
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
南あわじ市	緑圏域	実人数	15	17	10	11	12	11	10	11	15	14	16	18	160
		延人数	147	169	122	130	137	112	114	153	212	209	216	295	2016
	他圏域	実人数	7	8	8	7	7	6	3	4	3	4	2	3	62
		延人数	106	135	133	112	124	110	80	91	77	73	48	57	1146
洲本市	実人数	7	4	6	6	8	8	4	6	7	7	6	8	77	
	延人数	52	55	52	68	87	102	42	59	65	67	67	53	769	
実人数合計		29	29	24	24	27	25	17	21	25	25	24	29	299	
延人数合計		305	359	331	330	348	324	236	303	354	349	331	405	3975	

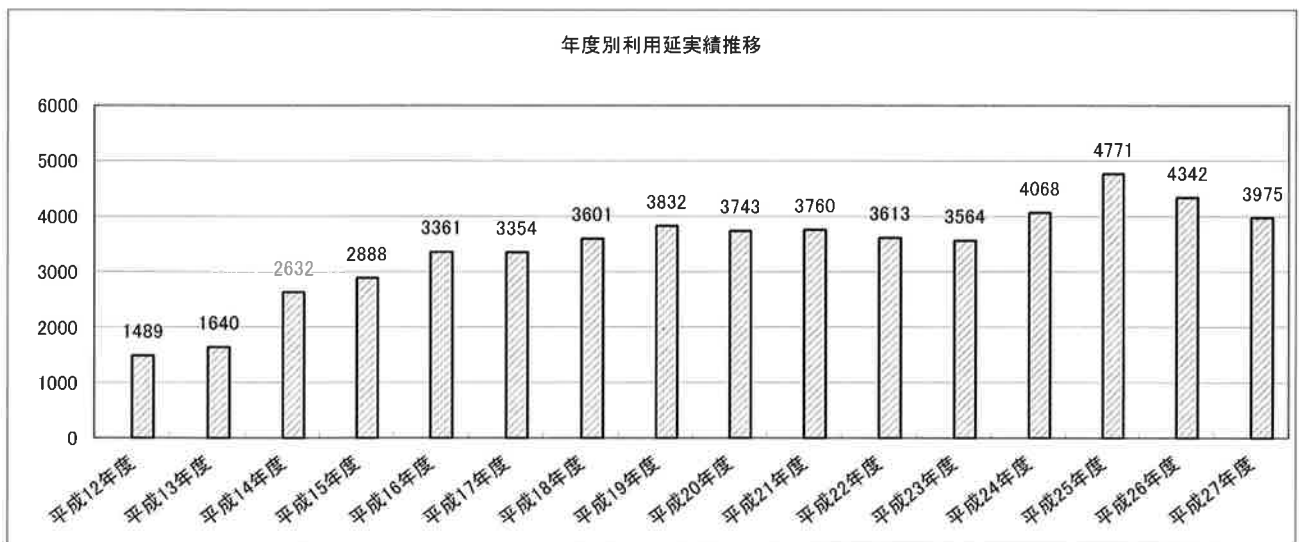


3 利 用 実 績

〔1〕年度別延利用実績

合計(延べ利用日数) 平均(1日あたり利用人員)

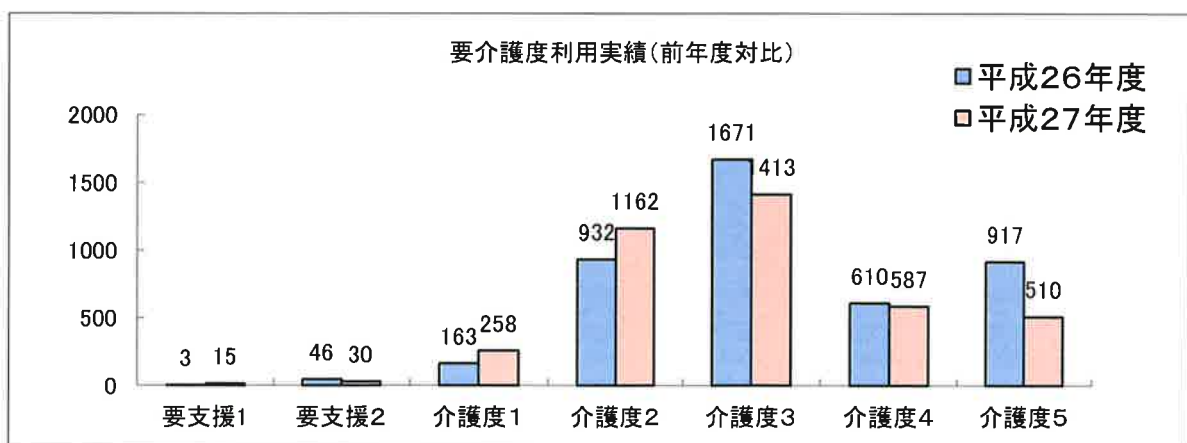
区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
平成12年度	38	98	140	94	75	103	114	114	152	149	194	218	1489	4.1
平成13年度	122	83	180	152	147	92	144	78	118	165	184	175	1640	4.5
平成14年度	208	205	220	208	261	216	234	226	236	249	200	169	2632	7.2
平成15年度	210	258	265	239	309	258	228	241	230	229	203	218	2888	7.9
平成16年度	247	273	282	275	266	226	277	329	308	306	265	307	3361	9.2
平成17年度	222	295	290	315	276	274	282	227	296	294	263	320	3354	9.2
平成18年度	308	338	349	381	330	288	304	241	246	283	259	274	3601	9.9
平成19年度	283	320	295	257	316	307	365	360	323	289	359	358	3832	10.5
平成20年度	294	294	286	274	326	320	342	316	354	328	289	320	3743	10.2
平成21年度	316	315	294	332	316	296	300	312	296	314	306	363	3760	10.3
平成22年度	320	332	321	312	295	285	302	262	241	264	305	374	3613	9.9
平成23年度	340	323	289	274	283	280	272	295	308	306	295	299	3564	9.7
平成24年度	361	385	364	325	331	333	325	311	340	355	316	322	4068	11.1
平成25年度	334	372	397	326	446	420	405	379	396	416	426	454	4771	13.1
平成26年度	408	362	355	363	375	362	345	349	373	381	321	348	4342	11.9
平成27年度	305	359	331	330	348	324	236	303	354	349	331	405	3975	10.9



[2] 要介護度別利用実績

区分		26年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要支援1	人	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
	延	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	15	0	0	15
	平均	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	15.0	0.0	0.0	15.0
要支援2	人	9	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3
	延	46	10	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	30
	平均	5.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	8.0	10.0
要介護1	人	39	5	5	2	2	4	3	1	2	6	4	5	7	46
	延	163	26	17	11	13	25	13	4	10	29	27	37	46	258
	平均	4.18	5.2	3.4	5.5	6.5	6.3	4.3	4.0	5.0	4.8	6.8	7.4	6.6	5.6
要介護2	人	96	7	8	9	8	11	11	6	7	8	9	8	9	101
	延	932	78	104	109	110	123	130	56	68	93	85	79	127	1162
	平均	9.71	11.1	13.0	12.1	13.8	11.2	11.8	9.3	9.7	11.6	9.4	9.9	14.1	11.5
要介護3	人	135	10	8	8	8	6	4	5	6	5	5	5	5	75
	延	1671	133	154	145	133	110	86	94	131	120	104	99	104	1413
	平均	12.4	13.3	19.3	18.1	16.6	18.3	21.5	18.8	21.8	24.0	20.8	19.8	20.8	18.8
要介護4	人	58	3	5	4	5	5	6	4	4	4	3	2	3	48
	延	610	23	41	37	47	64	66	52	52	58	54	27	66	587
	平均	10.5	7.7	8.2	9.3	9.4	12.8	11.0	13.0	13.0	14.5	18.0	13.5	22.0	12.2
要介護5	人	40	3	2	1	1	1	1	1	2	2	3	4	4	25
	延	917	35	31	29	27	26	29	30	42	54	64	89	54	510
	平均	22.9	11.7	15.5	29.0	27.0	26.0	29.0	30.0	21.0	27.0	21.3	22.3	13.5	20.4
合計	人	378	29	29	24	24	27	25	17	21	25	25	24	29	299
	延	4342	305	359	331	330	348	324	236	303	354	349	331	405	3975
	平均	11.5	10.5	12.4	13.8	13.8	12.9	13.0	13.9	14.4	14.2	14.0	13.8	14.0	13.3

※ 人(実人員) 延(延べ利用日数) 平均(ひとり当り利用日数)



IV 通所介護事業

1 施設の概要

- [1] 名 称 緑風デイサービスセンター
- [2] 所在地 兵庫県南あわじ市広田中筋1025-19
- [3] 開 設 平成6年7月1日
- [4] 設置運営 社会福祉法人 緑風会
- [5] 利用定員 25名

2 利用者状況

[1] 月別利用者数

区分		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
実開所日		22	21	22	23	21	22	22	21	21	20	21	23	21.6
新規利用	要支援	2	0	0	1	0	0	1	0	1	1	0	1	0.6
	要介護	2	0	1	1	0	1	1	0	1	1	0	0	0.7
要支援	実	9	10	9	10	9	8	11	10	8	9	9	12	9.5
	延	64	62	70	80	69	67	104	71	63	59	68	101	73.2
要介護	実	44	43	42	41	41	42	40	40	42	43	42	39	41.6
	延	448	413	430	421	402	437	434	409	412	417	415	410	420.7

(注) 平均は、少数点以下第2位を四捨五入しています。

[2] 利用平均数

開所日数	259	月平均	493.8	1日平均	22.9
------	-----	-----	-------	------	------

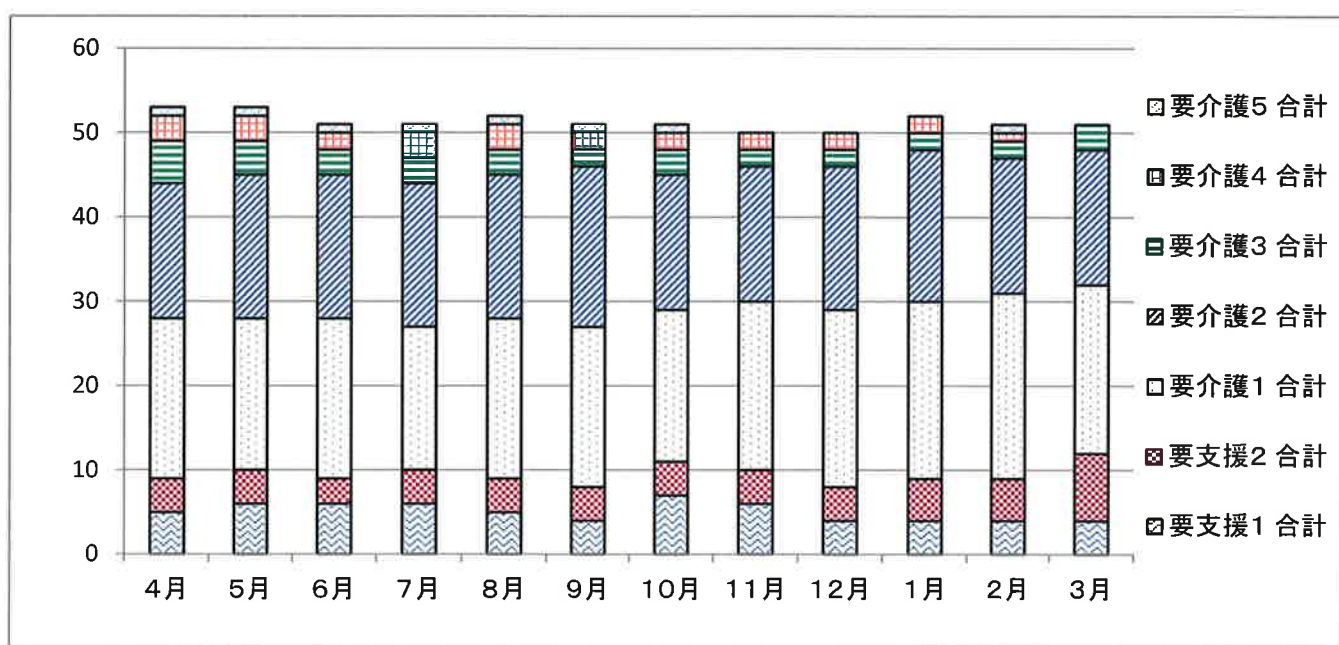
3 要介護度別利用状況

[1]平成27年度 実人数

要介護度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
要支援1	5	6	6	6	5	4	7	6	4	4	4	4	61	5.1
要支援2	4	4	3	4	4	4	4	4	4	5	5	8	53	4.4
要介護1	19	18	19	17	19	19	18	20	21	21	22	20	233	19.4
要介護2	16	17	17	17	17	19	16	16	17	18	16	16	202	16.8
要介護3	5	4	3	3	3	2	3	2	2	2	2	3	34	2.8
要介護4	3	3	2	3	3	2	2	2	2	2	1	0	25	2.1
要介護5	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	1	0	8	0.7
総合計	53	53	51	51	52	51	51	50	50	52	51	51	616	51.3

(注) 平均は、少数点以下第2位を四捨五入しています。

実人数表

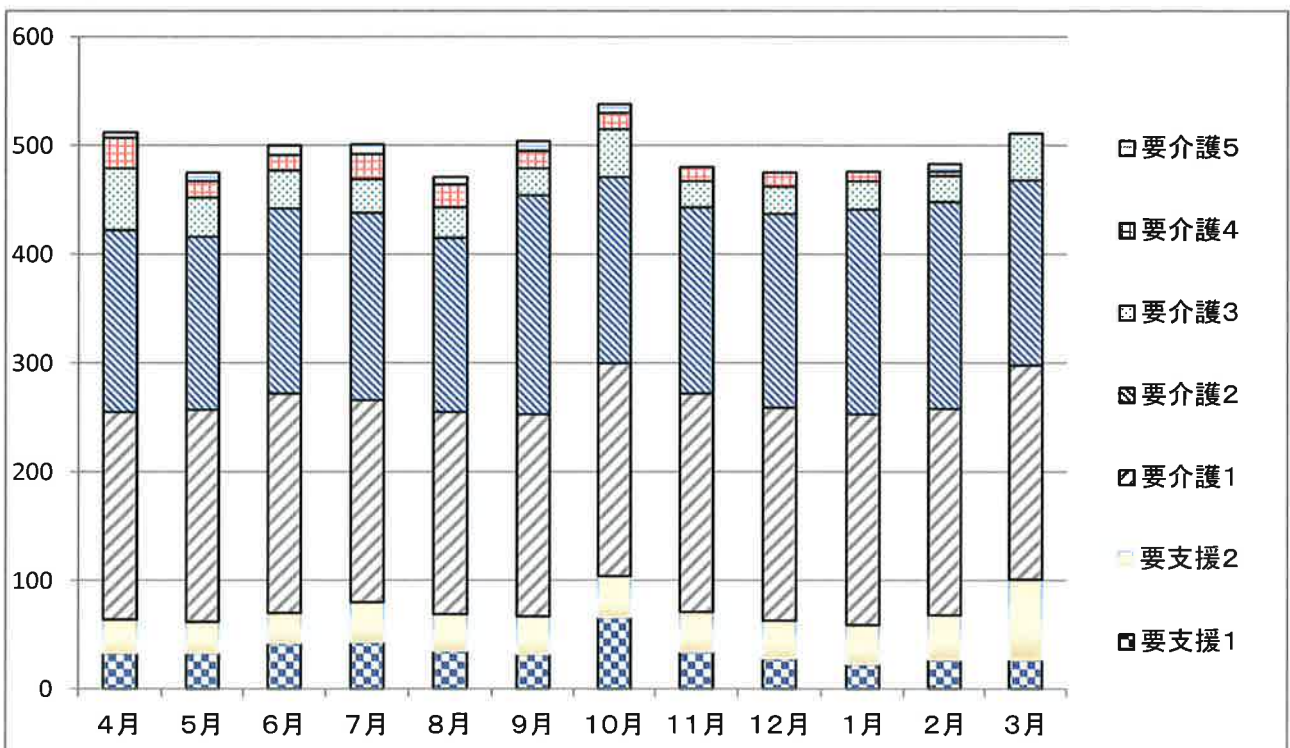


[2]平成27年度 延人数

要介護度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
要支援1	33	33	42	43	35	32	66	34	28	23	27	27	423	35.3
要支援2	31	29	28	37	34	35	38	37	35	36	41	74	455	37.9
要介護1	191	195	202	186	186	186	196	201	196	194	190	197	2320	193.3
要介護2	167	159	170	172	160	201	171	171	178	188	190	170	2097	174.8
要介護3	57	36	35	31	28	25	44	24	25	26	24	43	398	33.2
要介護4	28	15	14	23	21	16	15	13	13	9	4	0	171	14.3
要介護5	5	8	9	9	7	9	8	0	0	0	7	0	62	5.2
合計	512	475	500	501	471	504	538	480	475	476	483	511	5926	493.8

(注) 平均は、少数点以下第2位を四捨五入しています。

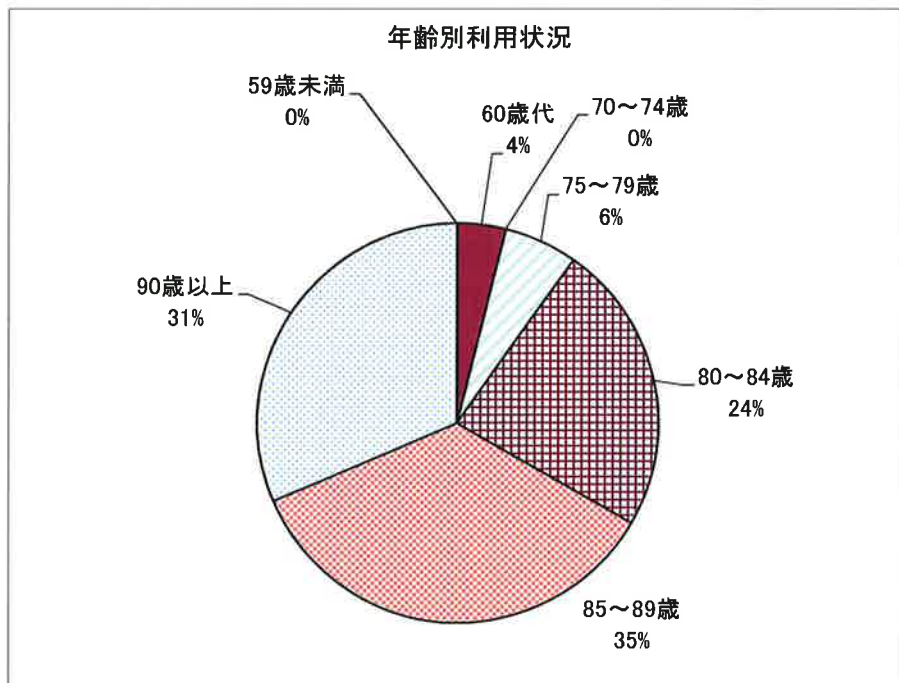
延人数表



4 年齢別利用状況

(平成28年3月31日現在)

区分	59歳未満	60歳代	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90歳以上	合計
予防	0	0	0	1	4	4	3	12
介護	0	2	0	2	8	14	13	39
計	0	2	0	3	12	18	16	51



区分	最低年齢	最高年齢	平均年齢
男性	62	92	83
女性	65	97	87.8
全体	63.5	94.5	85.4

(注) 平均は、少数点以下第2位を四捨五入しています。

5 利用者の居住状況

(平成28年3月31日現在)

[1]地区別利用者数

南あわじ 地区

区分	広田 広田	広田 中筋	山 添	中条 徳原	中条 中筋	中条 広田	倭文 庄田	倭文 土井	倭文 安住寺	倭文 長田	八木 養宜上	志知 佐礼尾	志知 志知	松帆 志知川	松帆 西路	合 計
男	0	4	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	6
女	1	6	2	1	3	2	2	2	1	1	0	1	0	2	1	25
計	1	10	2	1	4	2	2	2	1	1	0	1	1	2	1	31

洲本 地区

区分	前 平	木 戸	宇 山	大 野	物 部	納	宇 原	金 屋	鮎 屋	厚 浜	由 良	池 内	本 町	合 計
男	0	1	0	0	0	0	1	0	1	0	1	0	0	4
女	3	1	1	2	1	3	0	2	1	0	0	1	1	16
計	3	2	1	2	1	3	1	2	2	0	1	1	1	20

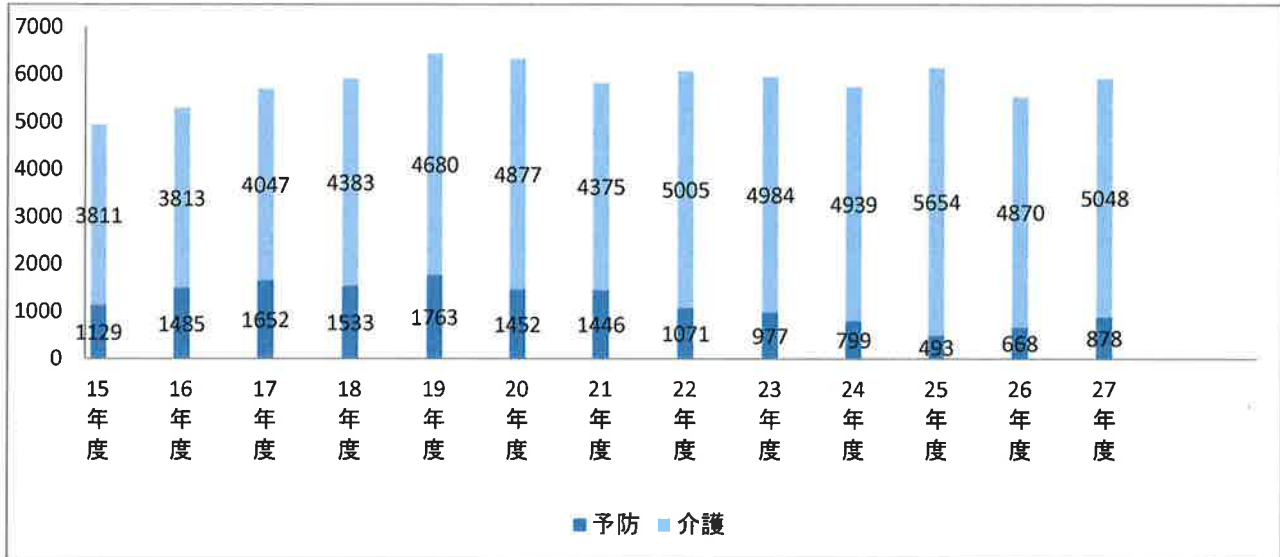
[2]世帯構成別利用者数

区分	家族同居	老人夫婦	独居	合計
予防	9	0	3	12
介護	29	3	7	39
計	38	3	10	51

6 過去利用者状況

(定員25名)

区分	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
予防	1129	1485	1652	1533	1763	1452	1446	1071	977	799	493	668	878
介護	3811	3813	4047	4383	4680	4877	4375	5005	4984	4939	5654	4870	5048
計	4940	5298	5699	5916	6443	6329	5821	6076	5961	5738	6147	5538	5926



7 個別機能訓練加算状況

「要支援訓練加算」 生活機能向上グループ加算:100単位 運動器機能向上加算:225単位 /月

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
生活機能向上	2	2	2	2	2	1	1	1	1	1	1	1	17
運動器機能向上	7	8	7	8	8	7	9	9	7	7	8	11	96

「要介護個別訓練加算」 個別機能訓練加算Ⅰ:42単位 個別機能訓練加算Ⅱ:50単位 /人

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
個別機能Ⅰ	実	44	43	42	40	41	42	40	40	42	43	42	0	459
	延	448	413	430	410	378	434	484	409	412	417	409	0	4644
個別機能Ⅱ	実	33	33	35	33	35	35	33	29	30	27	26	23	372
	延	351	337	367	350	335	378	367	301	303	289	278	256	3912

8 「ケアの工夫と環境作り」

タイムスケジュールを掲示することにより、時間に沿って利用者自身が活動するようになった。



テーブルの上にタイムスケジュール、入り口付近にウェルカムボードを使用してスケジュールを掲示した

どこに何があるか、わかりやすく掲示することで、利用者が決定して活動できるようになった。



浴室



タオル置場



連絡帳置場



血圧測定



クラブの備品置場



クラブの表示目印



おしぼり箱



ポットの操作



バイタル記入目印

トイレを使用前使用後の目印と水の流し方の表示、トイレが終わった後の手洗い⇒消毒という流れができるようにも表示をすることで感染予防に繋がっている。



使用確認目印



流し方



消毒液の設置



うがい用コップ

一日を振り返りながら実施したことを記入(機能訓練・レクリエーション等)することで認知症の進行予防にも繋げることができた。



9 自主トレ・グループ訓練



トレーニング場所で、自主的に個々のプログラムに沿っての訓練



バランス運動、立ち上げ動作、筋肉強化の訓練

自立支援を継続できるように、体力測定場所を設け利用者の体力づくり評価を検証



握力測定



棒反応測定



総合歩行力



バランス



柔軟運動

「利用者、職員との食事会」

恒例の外出行事、家族と外出する機会が少なくなってきた生活の中で、今回は外出に参加する意欲を持てる計画をした。



五色ウエルネスパーク・浜千鳥



夢工房で瓦の陶芸作り



明石海峡の道の駅あわじ



お土産売り場での買い物

10 事業計画に対しての取り組みと結果

【1】平成27年度新規利用者は、要支援者7名、要介護者8名で前年度に比較し要支援者は増加した。結果、一日の平均利用者数は、22.9名であり、目標とした25名を達成できなかった。

【2】デイフロア環境作りでは、目的場所に目印の工夫することで、行動の戸惑いや、利用者同志で助け合って、行動している姿が多く見られた。表示することにより、利用者自身が自立を意識した活動が行えた。

【3】個別機能訓練を実施する前に、「生活行為聞き取りシート」を活用し、利用者が感じている生活面での問題点や良くなりたい改善点を探し、自主的に運動に取り組めるプログラムを用意し自宅でも行なえるよう工夫した。

また、体力測定・機能評価を実施し、転倒予防、寝たきりにならないようサポートをした。

【4】自立支援についての研修会に参加をした。また、山口県の「夢のみずうみ村」に見学に行き、自立支援を遂行していく上でおいに参考となった。

【5】安全と安心感のある環境作りについて、徹底した手洗いと消毒を実施するとともに、家族との連携により体調管理に努めた結果、デイ利用者の感染症発生を防止することができた。

V 小規模多機能型居宅介護事業

1 施設の概要

- [1] 名 称 みどりの家
- [2] 所在地 兵庫県南あわじ市広田広田424-1
- [3] 開設 平成21年4月1日
- [4] 設置運営 社会福祉法人 緑風会
- [5] 利用定員 登録 25名 通い 15名 泊まり 9名
- [6] 土地・建物 敷地面積 247.93㎡(借地)
建物構造 鉄骨造亜鉛メッキ鋼板葺2階建
建物延面積 372.48㎡

2 事業実績報告

[1] 月別登録者数・サービス利用状況

区分 月	登録 人数	通い		泊り		訪問	
		実人数	延べ人数	実人数	延べ人数	実人数	延べ人数
4月	22	21	453	9	222	5	105
5月	22	21	458	10	227	6	91
6月	22	21	450	11	217	6	108
7月	22	21	439	11	220	7	168
8月	21	20	465	13	233	8	165
9月	21	20	436	10	224	8	135
10月	19	18	395	8	209	5	107
11月	18	17	384	10	209	7	86
12月	18	17	399	8	204	6	89
1月	19	18	366	9	215	5	84
2月	18	17	339	8	197	6	70
3月	17	16	373	9	206	7	92

〔2〕地域・男女別登録者の状況

地 域	男性	女性	合計
広田中筋	3	2	5
広田広田	1	5	6
中条中筋	0	1	1
山 添	0	2	2
倭文長田	0	1	1
神代地頭方	1	1	2
合 計	5	12	17

〔平成28年3月31日現在〕

〔3〕要介護度別登録者の状況

区 分	支援1	支援2	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	合計
4月	1	1	5	5	3	3	4	22
5月	1	1	5	5	2	4	4	22
6月	1	1	6	4	1	5	4	22
7月	1	1	6	3	2	5	4	22
8月	1	1	5	4	1	5	4	21
9月	2	1	6	3	0	5	4	21
10月	2	1	5	3	0	4	4	19
11月	2	2	4	3	0	3	4	18
12月	2	2	4	3	0	3	4	18
1月	2	3	3	4	0	3	4	19
2月	2	3	4	3	0	1	5	18
3月	2	2	4	3	0	1	5	17
平均	1.58	1.58	4.75	3.58	0.75	3.50	4.17	19.92

3 平成27年度事業計画に対しての取り組みと結果

〔1〕運営の方針については、利用者の人格の尊厳、人権の尊重を最優先に自立した日常生活が送れるよう又、その人らしくゆとりと安らぎに満ちた生活が送れるよう、下表の行事を実行する事を中心として強力に支援した。

月	年 間 行 事
4月	お花見【五色みたから公園】(2日・8名)(7日・9名)
5月	広田小中運動会見学 (16日・5名)
6月	外出会【ウエルネスパーク五色 レストラン浜千鳥】(4日・11名)
7月	「みどりの家」七夕祭り (7日・15名)
8月	「みどりの家」夏祭り (11日・20名)
9月	「みどりの家」敬老会 (16日・15名)
	「みどりの家」運動会 (12日・13名)
10月	外出会【きんたろう寿司】(26日・4名)(27日・3名)(30日・2名)
	広田中学校文化祭 (31日・4名)
11月	南あわじ市文化展出品・見学 (1日・2名)(2日・3名)(3日・2名)
12月	「みどりの家」クリスマス会(18日・14名)
	「みどりの家」もちつき会(25日・16名)
1月	「みどりの家」新年会(7日・11名)
2月	「みどりの家」豆まき会(3日・12名)
	外出会【八木しだれ梅】(22日・8名)(26日・2名)
3月	「みどりの家」ひな祭り会(3日・11名)

[2]小規模多機能型居宅介護計画については、利用者の心身状況や環境の現状に応じて希望を踏まえ、在宅で自立した日常生活が続けられるよう下表を中心とする支援をすることができた。

- | |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------|
| ①個々の心身状況にあった掃除や調理の手伝い、野菜作り等で自立支援を遂行した。 |
| ②地域とのつながりが途切れないよう、地域の総会や防災訓練に参加できるように役員と連携をして出席した。 |
| ③近隣の方や親せきの方が来所し、自由に語り合ったり触れ合える場を提供した。 |
| ④独居高齢者の安心・安全の支援(食事・服薬確認・安否確認等)に努めた。 |
| ⑤毎日、昼食前に音楽に合わせた体操を行う等、嚥下機能の保持や筋力低下を防ぎ、美味しく食事できるよう努めた。 |
| ⑥福祉用具購入及びレンタル等を提案し住環境を整えた。 |
| ⑦主治医による訪問で予防接種施行(1回)を支援した。 |
| ⑧車椅子等で病院に行けない方を送迎(同行)している。主治医とは情報提供書を看護師が作成して、普段の状況や体調不良を確実にお伝えしている。病院との連携を図ることにより健康維持に努めている。 |
| ⑨急な利用時間の延長や利用日の変更にも柔軟に対応し、家族の介護負担軽減を図ることができた。 |
| ⑩身体面の相談や書類の説明などの相談援助を行い、利用者や家族の不安を取り除いた。 |

[3]提供サービスについては、個々の生活の中で機能の減退を防止するよう次のとおり努めた。

- | |
|-------------------------------------------------|
| ・受診の送迎 ・買い物 ・野菜作り及び収穫援助 ・洗濯たたみ ・裁縫 ・おやつ作り ・外食会等 |
| ・テーブル拭き ・調理手伝い ・文化展作品作り ・掃除 ・地域行事参加 ・体操 ・ドライブ等 |

[4]その他

- | |
|----------------------------------------------------------------------------------------|
| ・地域住民の入所相談受け付けやボランティアの受け入れ等、地域介護力の強化に努めた。
(夏祭りには老人会緑支部有志による歌と踊り・敬老会には山添なかよし会に来所頂く。) |
| ・年末には餅つき会を開催。家族や近隣の方にも参加頂いた。 |
| ・防災訓練(広田中学校)参加と自治会主催の訓練に参加し、利用者と職員が防災意識を高めた。 |
| ・サロンの役割については、地域住民が気軽に立ち寄って談話し楽しいひと時を過ごせる場を提供した。 |
| ・利用者に合った食事形態(刻み・トロミ)や嗜好・病歴を考慮し、旬の食材で美味しい食事を提供できた。 |
| ・職員が積極的に研修会に参加し資質向上に努めた結果、介護福祉士の1名の合格をみた。 |
| ・夏祭り終了後に、家族の皆様にご意見やご要望をうかがう機会を設けることができた。 |
| ・経営の安定化については、利用者の定着と新規利用者(3名)を受け入れたが特養入所や入院により(8名)が登録抹消となった。 |
| ・各種マニュアルを細分化し質の向上に努めた。又、ひやりハット報告書については、再度発生しないよう対策を講じた。 |
| ・運営推進会議は、5回実施(台風で1回中止)し、地域とのつながりが一層深まり有意義な会議となった。 |

VI 居宅介護支援事業

1 施設の概要

〔1〕 名 称	社会福祉法人 緑風会 緑風館
〔2〕 所在地	兵庫県南あわじ市広田中筋1025-19
〔3〕 開設	平成11年10月1日
〔4〕 設置運営	社会福祉法人 緑風会
〔5〕 併設施設	特別養護老人ホーム 緑風館

2 新規登録者数

区分	26年度	27年度												合計	平均
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
要支援 (1,2)	17	3	3	3	3	3	1	3	1	0	1	2	1	24	2.0
要介護 (1~5)	35	7	5	5	5	5	2	6	4	3	3	5	2	52	4.3
合計	52	10	8	8	8	8	3	9	5	3	4	7	3	76	6.3

内訳

区分	26年度	27年度												合計	平均	
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月			
要支援	17	3	3	3	3	3	1	3	1	0	1	2	1	24	2.0	
要介護	直接 依頼	25	4	2	1	2	1	0	3	3	3	0	2	0	21	1.8
	要 支援 から 変更	10	0	0	1	0	1	1	0	0	0	2	0	1	6	0.5
	他 事業 所 から 変更	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0.1
合計	52	7	5	5	5	5	2	6	4	3	3	5	2	52	4.3	

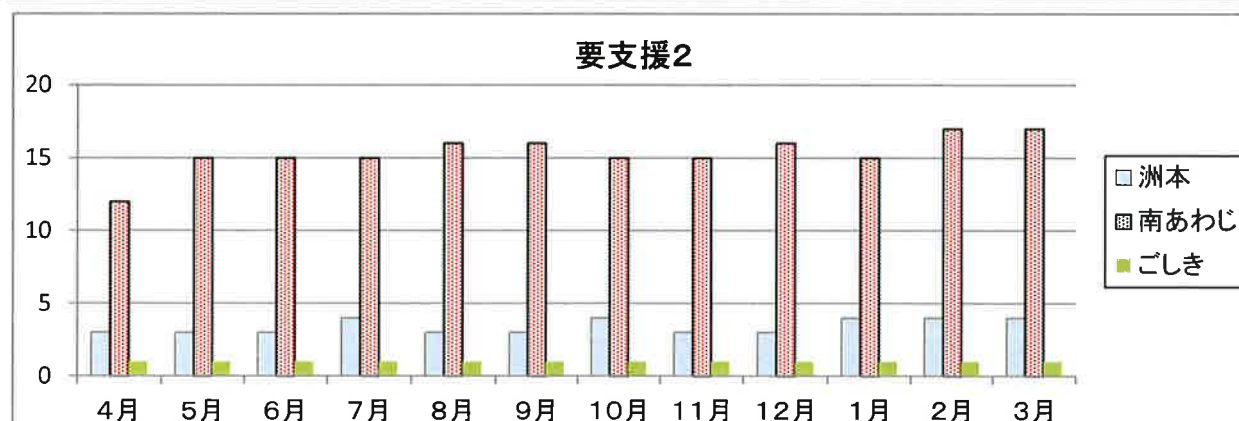
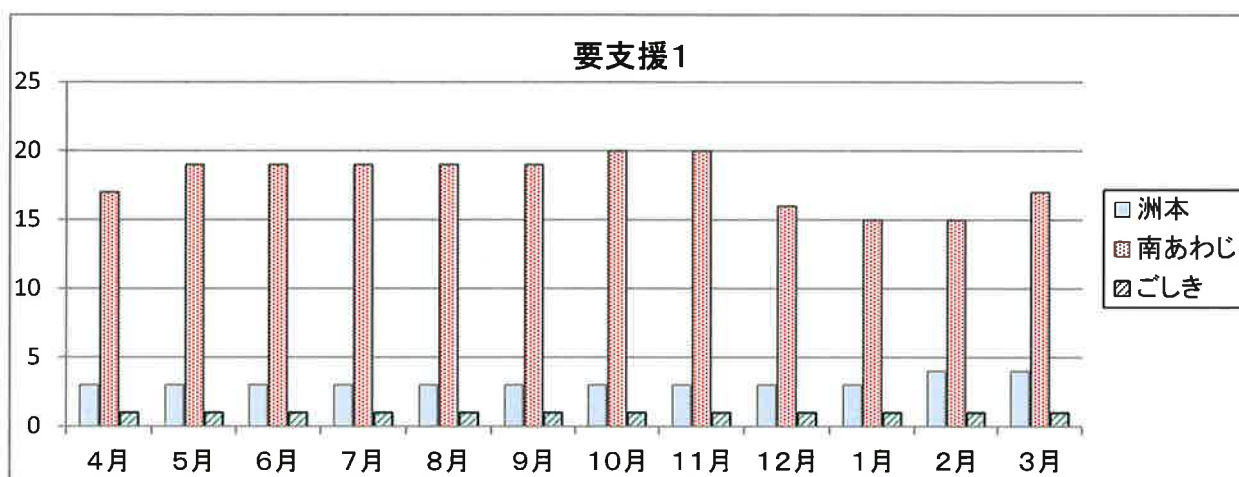
3 予防給付プラン作成実績

(件)

区分		26年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均	
予防プラン	要支援1	洲本	35	3	3	3	3	3	3	3	3	3	4	4	38	3.2	
		南あわじ ごしき	124	17	19	19	19	19	19	20	20	16	15	15	17	215	17.9
		ごしき	12	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12	1.0
	要支援2	洲本	36	3	3	3	4	3	3	4	3	3	4	4	4	41	3.4
		南あわじ ごしき	155	12	15	15	15	16	16	15	15	16	15	17	17	184	15.3
		ごしき	7	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12	1.0
	合計		369 (107)	37 (8)	42 (10)	42 (10)	43 (11)	43 (11)	43 (11)	44 (12)	43 (11)	40 (11)	39 (11)	42 (11)	44 (10)	502 (127)	41.8 (10.6)

※ 括弧内数字は、保険外サービスを組み合わせたケアプラン作成数(内数)である。

※ 保険外サービスには、配食サービス、ふれあい・いきいきサロン、ミニデイサービス、緊急通報システム等のサービスを組み合わせた。



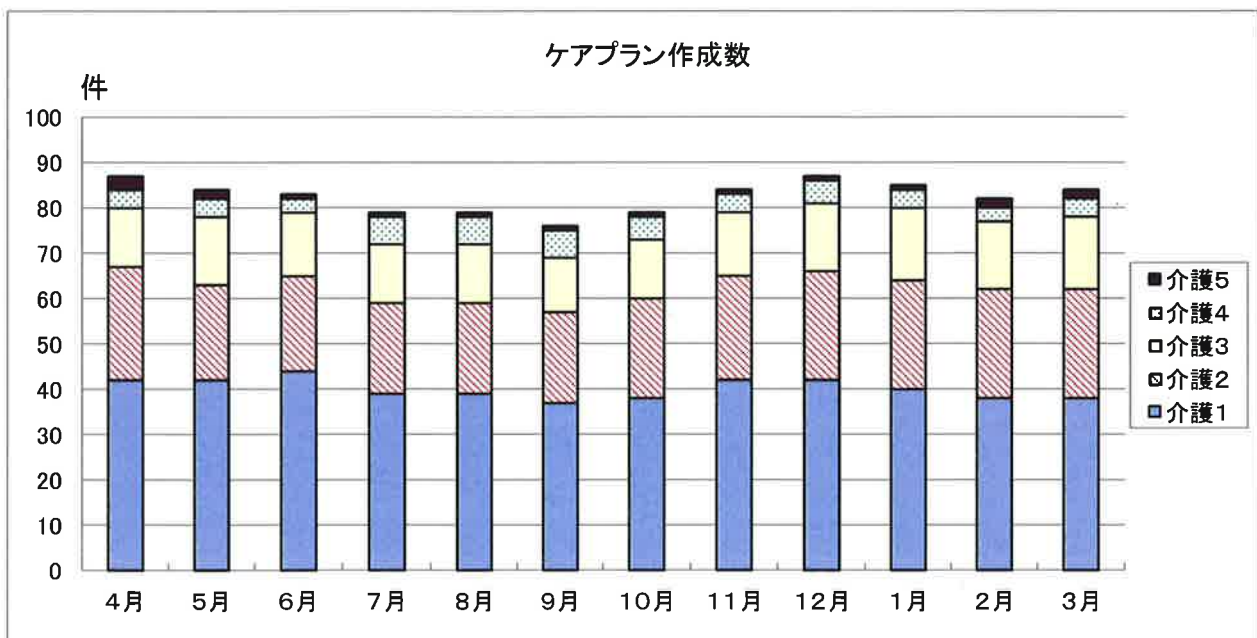
4 介護給付ケアプラン作成実績

(件)

区分	26年度	27年度												合計	平均
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
要介護1	484	42	42	44	39	39	37	38	42	42	40	38	38	481	40.1
要介護2	271	25	21	21	20	20	20	22	23	24	24	24	24	268	22.3
要介護3	166	13	15	14	13	13	12	13	14	15	16	15	16	169	14.1
要介護4	66	4	4	3	6	6	6	5	4	5	4	3	4	54	4.5
要介護5	33	3	2	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2	17	1.4
合計	1020	87	84	83	79	79	76	79	84	87	85	82	84	989	82.4
	(124)	(9)	(8)	(9)	(9)	(9)	(7)	(10)	(10)	(11)	(11)	(10)	(10)	(113)	(9.4)

※ 括弧内数字は、保険外サービスを組み合わせたケアプラン作成数(内数)である。

※ 保険外サービスには、配食サービス、ふれあいいきいきサロン、外出支援サービス
ミニデイサービス、緊急通報システム等のサービスを組み合わせた。



5 認定調査実績

(件)

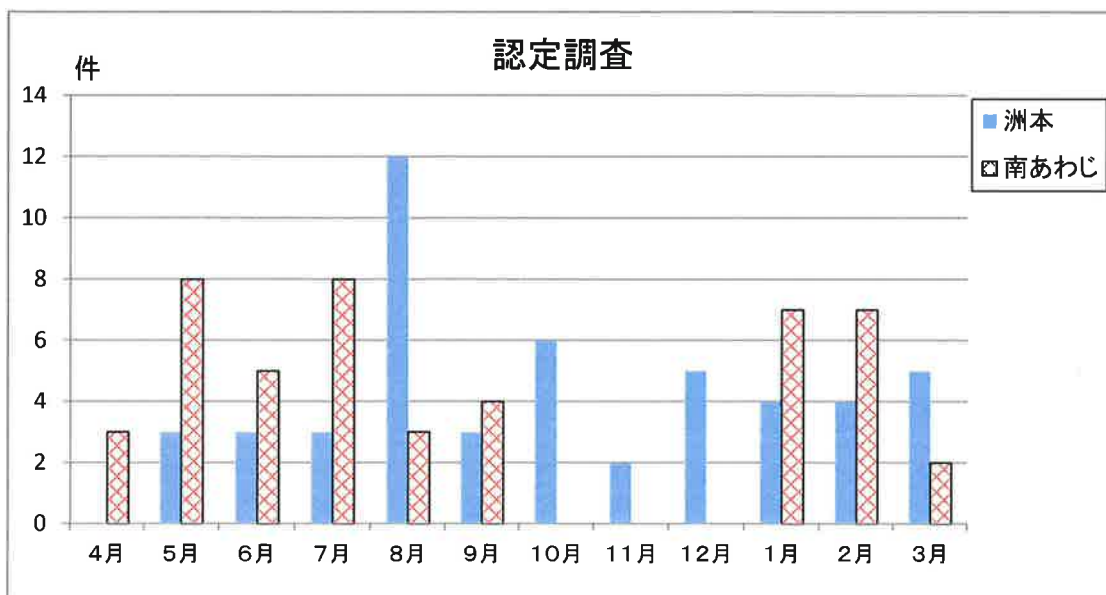
洲本市	26年度	27年度												合計
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
在宅	30	0	2	1	1	6	3	5	1	4	4	4	5	36
自施設	13	0	0	0	1	5	0	1	0	0	0	0	0	7
他施設	8	0	1	2	1	1	0	0	1	1	0	0	0	7
合計	51	0	3	3	3	12	3	6	2	5	4	4	5	50

(件)

南あわじ市	26年度	27年度												合計
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
在宅	6	2	6	0	7	1	4	0	0	0	3	4	0	27
自施設	16	1	2	4	1	2	0	0	0	0	3	3	2	18
他施設	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2
合計	22	3	8	5	8	3	4	0	0	0	7	7	2	47

* 南あわじ市においては、26年度に比べて調査件数は増加したものの、23年度から市の調査員が調査を行う方針となり、調査件数の減少が継続。南あわじ市へは、調査受託の依頼をしている。

* 洲本市においては、平均して依頼がある。



6 加算状況

(件)

区分	26年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
予防プラン	初回	17	4	4	3	3	3	1	3	2	1	2	2	3	31
	小規模連携	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
介護プラン	初回	36	5	3	3	1	3	1	4	1	5	2	1	1	30
	医療連携Ⅰ	2	2	1	2	1	0	1	1	0	2	1	0	0	11
	医療連携Ⅱ	14	2	2	3	0	2	2	0	1	1	2	2	5	22
	退院	17	2	0	1	4	2	1	2	5	1	2	3	3	26
	緊急時等居宅カンファレンス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	複合型サービス連携	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	小規模連携	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
	特定事業所Ⅱ	1020	87	84	83	79	79	76	79	84	87	85	82	84	989
合計	1107	102	94	95	88	89	82	89	94	97	94	90	96	1110	
独居高齢	161	15	15	15	15	15	14	14	15	14	14	12	14	172	
認知症	183	16	15	13	13	13	11	13	14	15	15	16	16	170	

※ 加算の説明について

初回 : 予防プラン 1回あたりの単価 ¥3,000×31名=93,000

: 初めてのサービス利用開始、または要介護度区分が3段階以上の変更認定、
または3ヵ月以上サービス利用していない場合で利用再開

介護プラン 1回あたりの単価 ¥3,000×30名=90,000

医療連携Ⅰ: 入院時に、医療施設へ訪問し、在宅での状況について情報提供を行った場合

1回あたりの単価 ¥2,000×11名=¥22,000

医療連携Ⅱ: 入院時に、医療施設へ訪問以外の方法で、在宅の状況について情報提供を行った場合

1回あたりの単価 ¥1,000×22名=¥22,000

退院 : 退院時に医療施設と連携をとった場合

1回あたりの単価 ¥3,000×26名=¥78,000

特定事業所: 主任介護支援専門員を配置。24時間連絡体制を確保し、必要に応じて相談に対応する。

加算Ⅱ 1件あたりの単価 ¥3,000×989件=¥2,967,000

* その他の加算に関しても、利用者の状態に応じて算定を行った。

* 連携に関しては、利用者・家族の承諾のもとで行い、その後のサービス調整にも繋がった。

* 認知症加算、独居高齢者加算については、今年度より基本報酬に組み込まれている。

7 平成27年度の事業計画に対しての取り組みと結果

- [1] ・利用者や家族からケアプランの見直しなどの要望があった場合、迅速に対応してケアプランの変更を行った。
今年度は、12名の内容を変更。状態の変化により、サービス内容の変更や追加を行った。
又、介護保険外のサービスについても説明し、要介護者11名、要支援者12名の計画作成を行った。
 - ・入院・退院時には、医療機関の訪問や電話連絡等で連携を図り、退院後の在宅生活が安全に送れるようにサービス等の調整を図り、26名の計画作成を行った。
- [2] ・かかりつけ医との連携に関しては、体調の急変時などに訪問、電話等で連絡・調整を図った。
また、利用者ご本人や家族を通じて情報交換を行ったり、了解のもと受診時に付き添い、かかりつけ医と顔の見える連携を図った。
- [3] ・利用者の家族や当法人職員からの相談に対し、制度の説明や申請代行等を行うことで良好な関係を築き、適時の介護サービスを利用することで、在宅生活が継続できるよう支援した。
 - ・月平均実績として、要介護者82.4件(前年比、2.6件減)、要支援者 41.8件(前年比、11件増)の居宅介護支援を提供できた。
 - ・今年度は、介護の新規依頼が昨年と同様の52件であった。要支援に関しては、昨年より8件新規依頼が増加している。軽度の認定者が多く、介護度が高い利用者は、状態の変化もあり、施設への入所や入院への移行が昨年と同様多く、継続支援が難しい。
- [4] ・困難ケースに関しては、地域包括支援センターや他のサービス事業者と連携を図り、早急に介護サービス提供へと繋ぎ、居宅介護支援を行った。
 - ・今年度も、地域包括支援センターと連携し、「個別地域ケア会議」の開催や成年後見制度の支援を行い在宅支援を行った。
 - ・サービス事業所との情報交換も毎月行っており、良好な関係を築いている。
 - ・24時間連絡体制を整備し、これを周知することで、利用者・家族からの要望にいち早く対応することができた。
- [5] ・週1回のミーティングを実施することで、困難ケースを事業所全体でカバーできる体制を整えている。
困難事例等については、その都度、事業所内での検討を行い、必要に応じて地域包括支援センターに相談しサービスに反映させていった。
 - ・毎月開催される南あわじ市と洲本市の介護支援専門員連絡会へ17回出席し、最新の介護保険情報や事業所の情報、地域の情報収集に努めている。また、他事業所の介護支援専門員とも情報交換を行い、居宅介護支援に反映させた。

Ⅶ 在宅介護支援センター

1 施設の概要

〔1〕名	称	緑風在宅介護支援センター
〔2〕所	在	地 兵庫県南あわじ市広田中筋1025-19
〔3〕開	設	平成6年6月27日
〔4〕設	置	運 営 社会福祉法人 緑風会
〔5〕併	設	施 設 特別養護老人ホーム 緑風館

2 活動実績

区 分		26年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
活動日数	開所日数	256	21	20	18	26	20	21	23	21	22	21	21	22	256 日
	訪問回数	69	6	12	8	7	7	5	5	5	5	19	8	10	97 回
	会 議	52	3	3	3	5	4	2	3	3	3	5	3	2	39 件
	家 族 会	5	0	0	1	0	0	0	0	1	0	2	1	1	6 件
	出前指導	20	0	0	0	2	0	0	0	0	1	0	1	0	4 件
	新 規 出前指導	17	1	0	0	2	0	2	8	1	0	1	2	1	18 件

※ 訪問回数は、相談依頼への対応と、市が行っている配食サービス、紙オムツ補助のアセスメント調査である。

※ 出前指導は2回目以降の認知症サポーター養成講座、新規出前指導は初回の認知症サポーター養成講座である。

3 会議の内訳

(件)

区 分	26年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
地域包括在介連絡会	10	0	1	1	1	1	0	1	1	1	1	1	1	10
その他の会議	18	1	0	0	2	1	0	2	1	0	2	0	0	9
合 計	28	1	1	1	3	2	0	3	2	1	3	1	1	19

※ 上記の表と以外に、緑地区民生委員会と緑地区地域ケア会議は毎月出席している。

※ その他の会議は、各在宅介護支援センターとの打ち合わせ会議、研修などである。

4 相談会・出前指導の内訳

(件)

区 分	26年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
いきいき百歳体操	20	1	2	4	1	1	2	1	1	1	0	3	1	18
認知症サポーター養成講座	17	1	0	0	4	0	2	8	0	0	1	3	1	20
合 計	37	2	2	4	5	1	4	9	1	1	1	6	2	38

5 相談内容別実績

(件)

区 分	26年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
在宅生活について	10	0	1	1	0	0	1	3	1	2	1	1	0	11
施設入所について	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
情報提供	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
その他	3	4	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	5
相談実人数	21	4	1	1	0	0	1	3	2	3	1	1	0	17

6 調査訪問内容別実績

(件)

区 分	26年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
オムツ調査	20	1	3	2	2	1	0	0	0	0	10	2	2	23
配食調査	23	1	2	0	0	1	0	1	1	2	6	3	4	21
継続見守り	27	6	7	6	5	5	5	4	4	3	3	3	4	55
合 計	70	8	12	8	7	7	5	5	5	5	19	8	10	99

7 平成27年度 事業計画に対しての取り組みと結果

〔1〕 出前指導として認知症に対する地域住民への正しい理解の普及について

市内在宅介護支援センター4事業所と協力し、「認知症サポーター養成講座」の開催と、新聞やケーブルテレビなどのメディアを利用した普及活動を行い、認知症に対しての理解を積極的にアピールした。結果、多くの事業所や地域の団体から講座依頼があり、必要性が理解された。今年度は特に小・中学校へも出向き、学生に対しても認知症の理解について啓蒙を行った。



(南淡路病院職員)

〔2〕地域住民からの相談に対する窓口機能について

各地区のいきいき百歳体操を支援する中で、生活の中での困り事を聞き取り、支援サービスに繋るとともに、民生児童委員の定例会に参加することで、民生委員と協力して高齢者支援の方向性を検討していくなど、身近な高齢者の窓口としての機能を発揮でき、サービスや見守り体制を強化できた。



(長田地区でのいきいき百歳体操)

〔3〕地域ケア会議の充実について

高齢者の独り暮らしの方や高齢者世帯だけでなく、家族と同居しても気になるような家庭があれば、議題になり、その後適切に対応することができた。また、民生委員が毎月交代で出席することで、より身近な高齢者の課題を議論できる場となり、病院や社協、ケアマネなどとも情報を共有でき、対象者に何かあったときはすぐに対応することができた。個別のケースを具体的に検討する中で、地域の状況や課題も確認できた。



(緑地区地域ケア会議)

〔4〕家族会の継続支援について

南あわじ市の認知症を支える家族の会(スマイル)は、参加者が自主的に運営できている。今年度後半には、役員や会則を定め、お互いに協力し合い、いろんな話の中から、介護についての悩みや癒し、工夫などを共有できるようになってきた。毎月1回定例会とは別に、認知症カフェをオープンすることができ、認知症に関することを知りたい人なら誰でも気軽に集える場所となっている。我々専門職は側面的な支援を行った。介護をしている家族同士が交流できる場を設けることで、日頃の介護に関する悩みや工夫を話し合う機会となった。



(喫茶店いちばん星にて)

Ⅷ 地 域 交 流 実 績

No. 1

区分	ボランティア名(敬称略)	内 容	人 数
4月	ビハーラとも	お話し相手	8
	西村 真	色紙絵	1
5月	ビハーラとも	お話し相手	8
	調理ボランティア	行事(喫茶コーナー)	4
	西村 真	色紙絵	1
6月	ビハーラとも	お話し相手	8
	倭文中学校	交流会	訪問
	調理ボランティア	行事(喫茶コーナー)	2
	西村 真	色紙絵	1
7月	調理ボランティア	行事(喫茶コーナー)	4
	倭文保育園	七夕祭り	30
	ビハーラとも	納涼祭	25
	楽衆～輪～	納涼祭	13
	賀集十二志会	納涼祭	18
	倭文中学校音楽部	納涼祭	13
	パナソニック かけはし連	納涼祭	10
	社協ボランティア	納涼祭	3
	元職員	納涼祭	3
	西村 真	色紙絵	1
8月	広田少年野球クラブ	清掃奉仕	18
	調理ボランティア	行事(喫茶コーナー)	3
9月	うずしお学園老人大学大正琴クラブ・さくら会	敬老会行事	18
	ビハーラとも	お話し相手	13
	南あわじ市敬老会	敬老会式典	訪問
	西村 真	色紙絵	1
	調理ボランティア	行事(喫茶コーナー)	3
10月	ビハーラとも	お話し相手	10
	傾聴ボランティア体験	お話し相手	2
	西村 真	色紙絵	1
11月	倭文小学校・中学校	ふくちゃん祭り	訪問
	西村 真	色紙絵	1
	調理ボランティア	行事(喫茶コーナー)	3
12月	ビハーラとも	お話し相手	10
	ハッピー	もちつき	2
	倭文少女バレークラブ	もちつき	8
	広田保育園	クリスマス会行事(唄、踊り)	44

1月	西村 真	色紙絵	1
	大正琴しづおり	新年会行事	7
	ピー&ピピ(オカリナ演奏)	新年会行事	5
	南あわじ市老人クラブ連合会	友愛訪問(唄、踊り)	40
2月	ビハーラとも	お話し相手	11
	西村 真	色紙絵	1
	倭文保育園	豆まき会行事	29
3月	ビハーラとも	お話し相手	9
	うずしお学園 大正琴クラブ	ひなまつり会行事(琴演奏)	13
	西村 真	色紙絵	1
	CHIZURU	歌とギター	2

合計 409人